久留米市文化財調査報告書　第 407 集

くるめじょうかまちいせき

久留米城下町遺跡

―第 27 次発掘調査報告―

平成 31（2019）年 3 月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、水路と陸路の要所であることから、古くから筑後地域の政治・経済・文化・宗教の中心地として発展をとげてきました。

今回の調査は、久留米市中心部の通町で実施しました。通町は久留米城下を東西に貫く都市軸であり、近世から現代まで久留米の経済の中心としての役割を果たしました。

調査では江戸時代の生活用品に加え、大量の製鉄遺物が発見され、久留米城下における鉄生産を解明する貴重な資料が得られました。

今回の成果を活かして、久留米市の市民文化や教育の発展に貢献できれば幸いです。また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました九電不動産株式会社様ならびに周辺住民の皆様に心より御礼申し上げます。

平成31年3月31日

久留米市教育委員会

教育長　　大津 秀明

例言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち、平成29年度に九電不動産株式会社の委託を受けて実施した、久留米城下町遺跡第27次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の江頭俊介が担当した。
3. 本書に掲載した遺構実測図の作成は、江頭と大淵文子、中村麻衣が行い、浄書は「遺構くんcubic」で作成した。遺物の実測は丸山裕見子と宮﨑彩香が行い、浄書は江頭と今村が行った。
4. 遺構写真は、マミヤRB67を用いて江頭が撮影した。遺物写真撮影はニコンデジタルカメラD700を用いて、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、江頭が行った。なお、本文中の遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。
5. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系(世界測地系)を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。なお、熊本地震に係るパラメータ補正は行っていない。
6. 本書に使用した遺構の略記号は、SD－溝、SE－井戸、SK－土坑、SX－炉等を示す。
7. 出土遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
8. 本調査の略記号はLKM－027、調査番号は201711である。
9. 本書の執筆・編集は江頭が行った。
10. 表紙写真はSK21出土碗形滓と羽口である。

本文目次

Ⅰ. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ. 位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ. 調査の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅳ. 総括・・ 24

Ⅰ．はじめに

1．調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成29年6月13日、九電不動産株式会社より、久留米市通町107-4、107-5、107-6、日吉町29-6、29-7、29-8、63-2における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地一帯は、かつての通町六丁目の範囲内にあたり、今回の調査地においても、江戸時代以前の遺構が残存している可能性があると考えられたため、発掘調査が必要である旨回答した。同年6月19日九電不動産株式会社より発掘調査の依頼が提出され、それを受けて久留米市と九電不動産株式会社は、7月14日埋蔵文化財発掘調査にかかる委託契約を締結し、久留米市教育委員会は8月1日から発掘調査を開始した。平成29年11月8日に発掘調査を終了し、その後、平成31年3月31日まで整理作業と報告書の作成を行った。調査面積は280㎡である。

2．調査の体制

調査委託者：九電不動産株式会社

調 査 主 体：久留米市教育委員会

（平成29年度）

調 査 担 当：市民文化部文化財保護課

部　　長：野田秀樹　　文化芸術担当部長：甲斐田忠之

次　　長：西村信二　　課　　長：馬場博文

課長補佐：山﨑万里子　　主　　査：水原道範

事務主査：塚本映子　豊福早苗　　調　査　担　当：江頭俊介

整理担当：宮﨑彩香

（平成30年度）

整 理 担 当：市民文化部文化財保護課

部　　長：松野誠彦　　文化芸術担当部長：宮原義治

次　　長：西村信二　　課　　長：水島秀雄

課長補佐：久保田由美　　主　　査：水原道範

事務主査：塚本映子

整理担当：江頭俊介　宮﨑彩香

発掘調査臨時職員

秋永絹子、牛島康典、大淵文子、川原初美、川原光貴、高尾春代、田中樹子、田中とし子、中村麻衣、松尾朱美、丸山幸、東南、藤木幸子、二村智治、由布幸子、渡辺しげ子、渡辺やつ子

整理臨時職員

椛島かおり

3. 調査の目的と経過

調査地は近世久留米城下の東西の基軸となる通町に立地しており、近世以前の土地利用の状況を確認することを目的として調査を行った。平成29年8月1日、表土剝ぎを開始した。調査区東側では地表下0.2mで屋敷境となる石垣を検出したため、一旦表土剥ぎを中止し、石垣の調査を行った。西側は地表下0.6mの黄褐色の地山上面まで掘り下げ、遺構を検出した。東側の石垣の裏込めから近代の煉瓦やガラス片などが出土したことから、石垣が近代に帰属することを確認し、8月22日に高所作業車による全景写真撮影を行い、翌日から東側を地表下0.6mまで掘り下げた。近世の遺構面全体の調査を続け、10月31日から埋め戻しを行った。翌11月1日に埋め戻しを完了し、調査を終了した。遺構実測はトータル・ステーションで行い、「遺構くんcubic」で編集した。記録写真は、カラーリバーサル、モノクロともに、6×7判で撮影した。

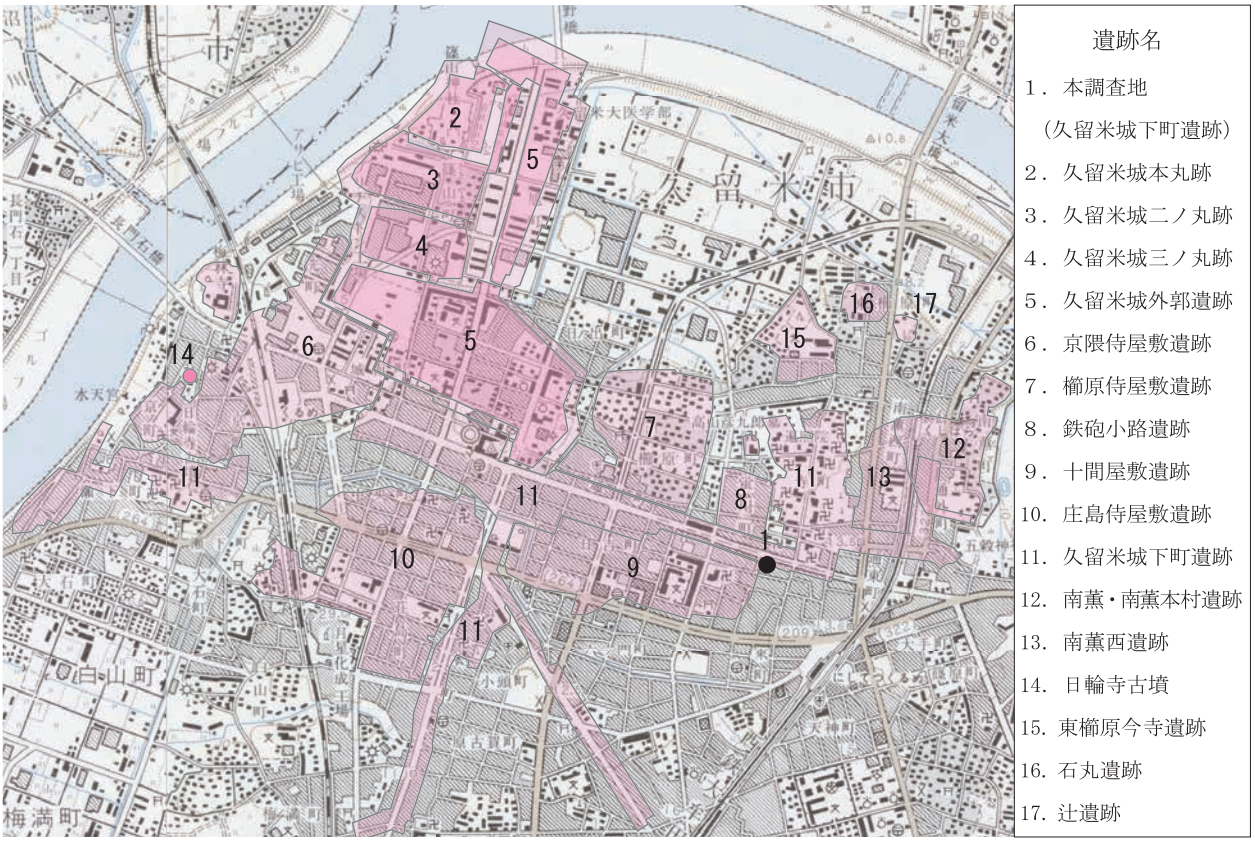
Ⅱ. 位置と環境

福岡県久留米市は、九州の北部、筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。九州一の大河筑後川は、熊本県阿蘇郡瀬の本高原に端を発し、山岳部を北流したのち、玖珠川を合わせ、うきは市荒瀬から西は平野部を西流する。平野部では佐田川、小石原川、大刀洗川、巨瀬川、宝満川などの支流を合わせ、久留米市北西部で南に方向を変え有明海に注ぐ。熊本県、大分県、福岡県、佐賀県の四県にまたがる流域面積は2,860平方キロメートルを有する。川幅は広く、完全に護岸が施された現代においても、中流域で100m、下流域で120m以上を測る。流域の年間降水量2,000mmと、全国平均より多く、水量は豊富である。利根川、吉野川とならぶ日本屈指の暴れ川であり「筑紫次郎」の異名をとる。筑後川の堆積作用によって形成された筑紫平野は、有明海の最奥部に位置する九州最大の平野であり、北西を脊振山地、北東を古処山系、南東を耳納山地に囲まれ、西方と南東方に開けている。筑紫平野の中央は脊振山地から派生する丘陵と耳納山地から派生する段丘が東西両側から突出しており、筑後川を挟んで地峡部を成している。この地峡の北西側の丘陵上には肥前一宮である千栗八幡宮が鎮座し、南東側の段丘頂部には久留米城が位置する。

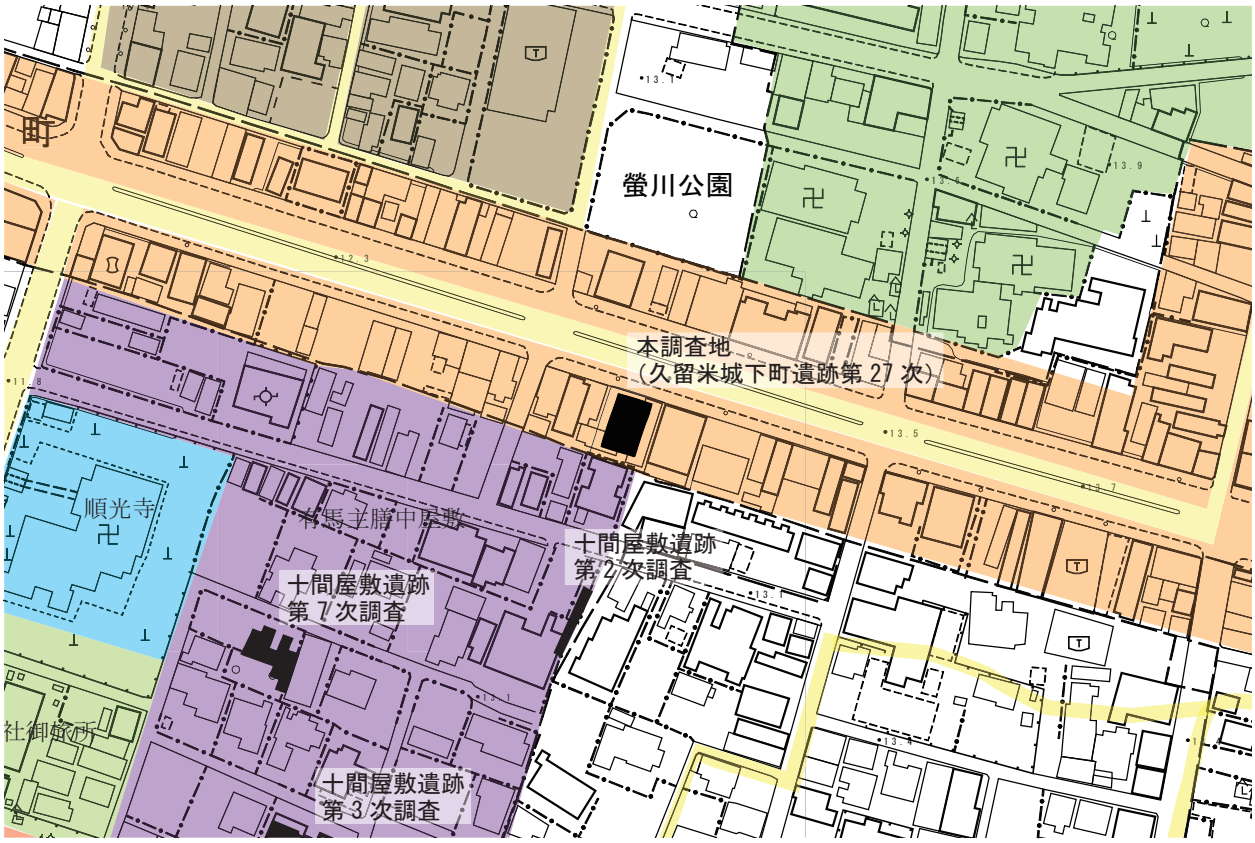
「久留米」または「久留目」の文献における初出は、『隈文書』「報恩寺々領坪付之事」応永25年(1418)2月28日付である。ここに「くるめ屋敷」、「久留米屋敷」、「久留目屋敷」の記述がある。続いて、『鷹尾神社関係文書』応永27年(1420)7月「溝口目安申状案」に「久留目方」の記述がある。いずれも「久留米」は高良山関係者を指すと考えられている。「久留米城」は『九州治乱記』(1720)において、天文2年(1533)正月大友氏と大内氏の合戦が筑後地方に波及し、大内方の武将陶興房が久留米・安武の両城を落とした際のこととして、久留米城主豊饒美作入道永源が肥前東津村に退いたことが記され、大永年間(1521 ～ 1527)には、高橋某が「笹山城」(久留米城のこととみられる)に砦塁を築いたと伝えられている。次に『筑後将士軍談』では、天正13年(1585)龍造寺氏と大友氏が筑後地方で争い、久留米城に籠る高良山座主麟圭が龍造寺勢を筑後川左岸に引き入れたとされる。天正13年(1585)9月には筑紫氏が大友方の武将高橋紹運の本城、宝満城を攻撃したこ

とにより、高良山に在陣していた高橋勢が筑後から撤退する。これにより龍造寺方の軍勢が高良山を占領した。その際久留米城は龍造寺方の内田紀伊守信堅と姉川中務大輔信安が城番を務めたことが記されている。

その後秀吉による九州出兵を経て、久留米3万5千石（諸説あり）が毛利元就の九男小早川秀包に与えられた。秀包領であった関ヶ原合戦までの14年間の久留米城下の姿は未だ詳らかでないが、両替町遺跡（久留米城下町遺跡第2次）の調査でロザリオや教会堂の遺構などが検出されていることや、久留米城下が当時のキリスト教の布教拠点として機能していたことなどから、すでに相当規模の街区が形成されていたことが窺える。関ヶ原合戦後には、久留米城は柳川城主田中吉政の支城となり吉政の四男則政が配置されたが、この頃も二ノ丸の拡張や、筑後川梅林寺岸の開削など大規模な都市整備事業が行われた。本調査地が位置する通町（当時の呼称は長町）はこの頃すでに4丁目までが存在し、通町と交差する三本松町や、川港である洗切、ほかに内町、元町などが形成されていた。田中家の改易に伴い元和7年（1621）に有馬豊氏が北筑後21万石の領主として久留米に封ぜられ、引き続き外郭の造成や町の延伸拡張を行った。通町は寛永4年（1627）から東へ拡大し、寛永19年（1642）には九丁目まで延伸した。本調査地は元禄図、延宝図、明治5年通町絵図では六丁目にあたり、天保図でのみ五丁目にあたる。調査区外の敷地南側は、天保図以降は有馬主膳中屋敷の北東隅にあたる。現在も屋敷地と町屋の境に石垣造りの水路が流れており、往時の面影を残している。



第1図　周辺の遺跡分布図（1/25,000）



第2図　調査区位置図（1/2,500）

Ⅲ．調査の記録

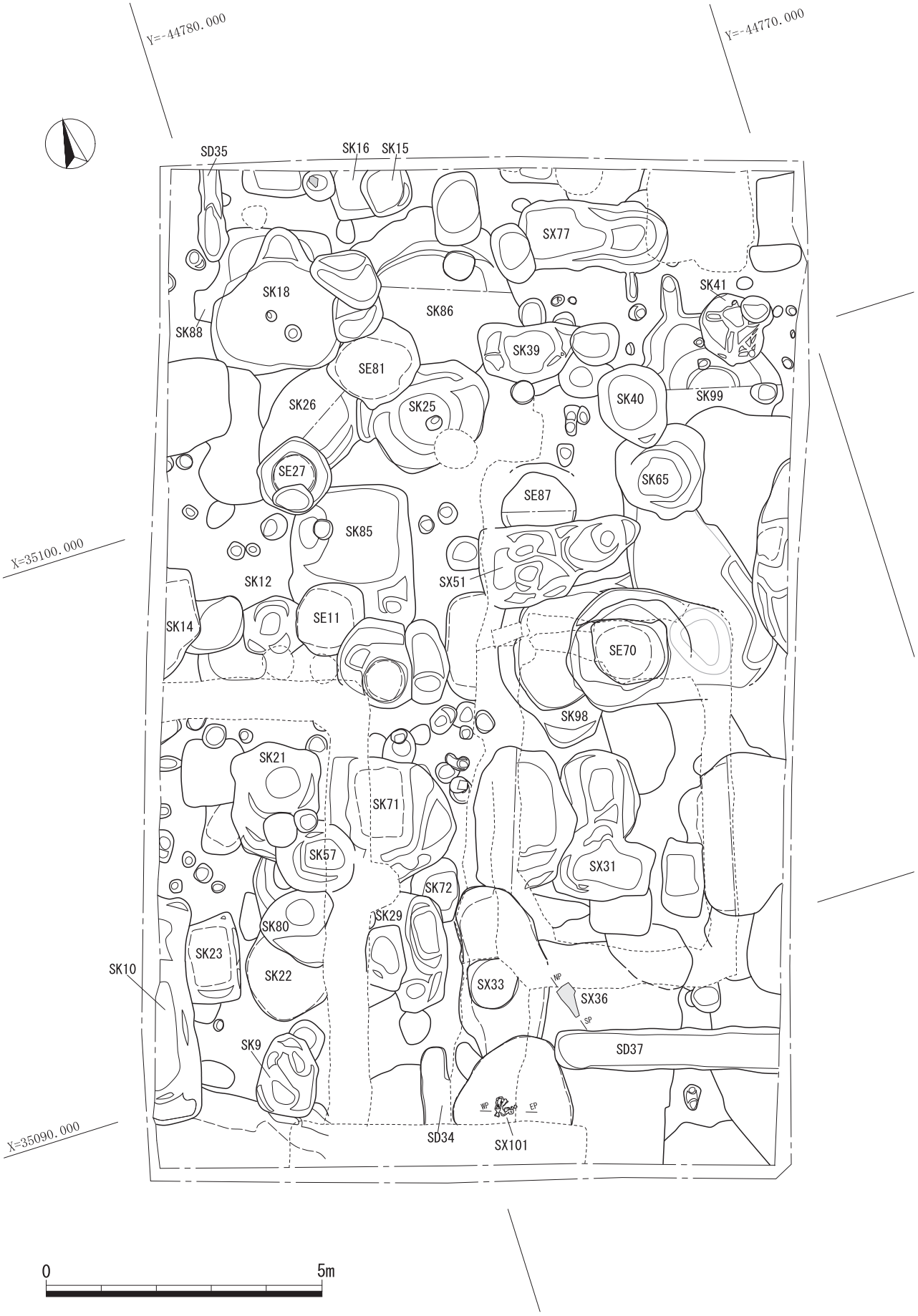
1．検出遺構

近世の溝3条、井戸7基、土坑37基、埋甕3基、炉3基、ピット、その他石組み等が検出された。紙面の都合上、各遺構の規模や諸特徴については主要遺構一覧表を参照願う。

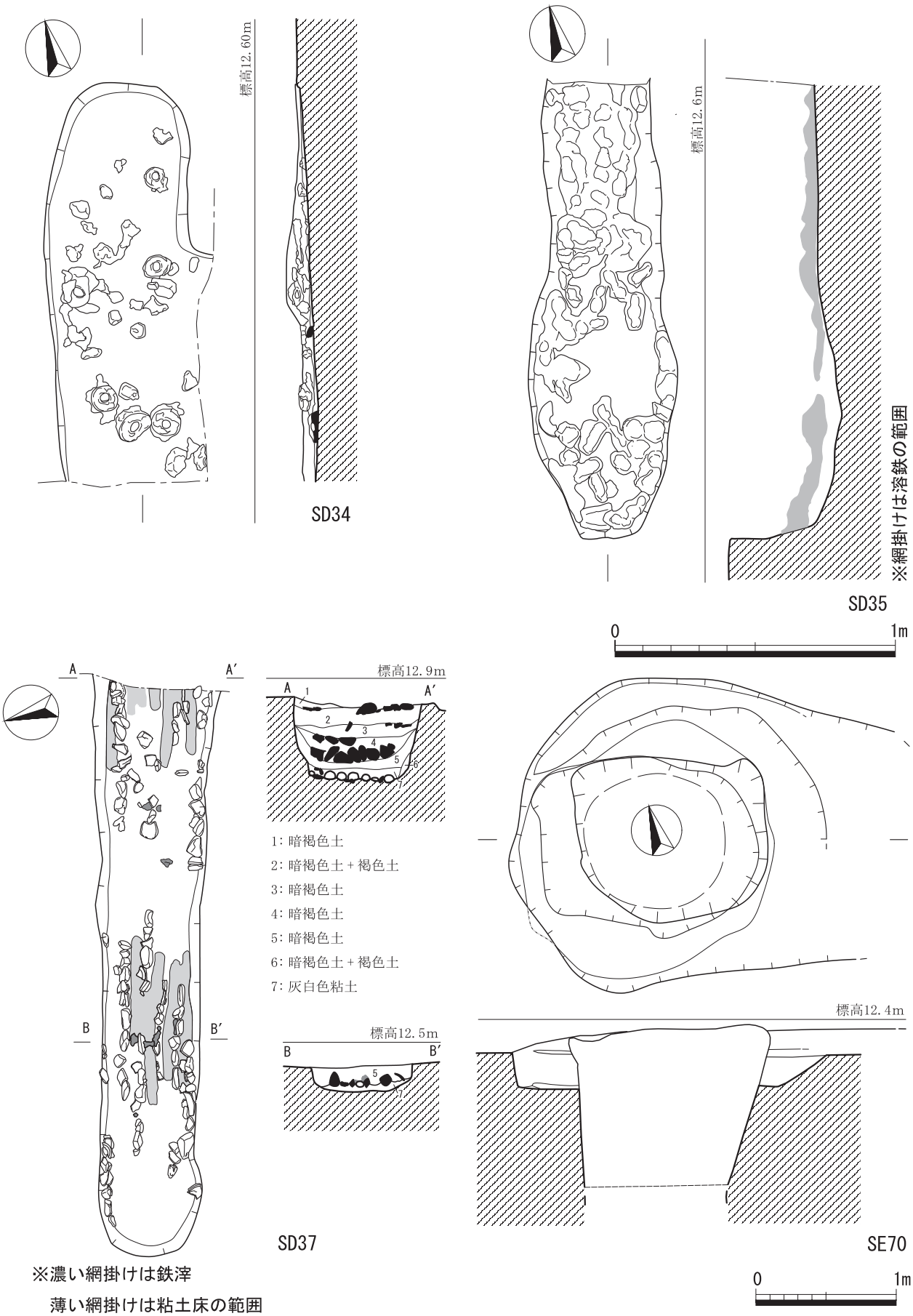
特記すべき遺構について述べる。SX31は埋土上部に赤褐色の焼土が大量に堆積し、下部には同じく大量の炭が堆積している。平面は逆T字を呈し、細長い奥部分が一段高く燃焼部となり石が敷き詰められている。手前は一段低くなり、足場と考えられる。足場の底面には溶鉄が付着している。遺物は19世紀の陶磁器が出土している。SX51は不正楕円形の平面形を呈する。東側が一段高く、炭の層を有する。西側は低く、足を置いたと思われる窪みが2箇所ある。19世紀の遺物が出土している。SX77は、東側は平面円形を呈し、西側は長方形を呈する。東側には壁面に粘土が貼り付けられ、竈に類似する。西側は中位と下位の二層にタタキを有し、固く締められている。18世紀の遺物が出土している。SD37は底部に長い筒状の空洞を6本有し、その間を固定するために礫が並べられている。SD37の延長上の西側には環状に小礫が密集しており、その下には溶鉄がある。時期別の遺構数は、19世紀の遺構が多く、18世紀のものがこれに次ぎ、17世紀のものは少ない。

2．出土遺物

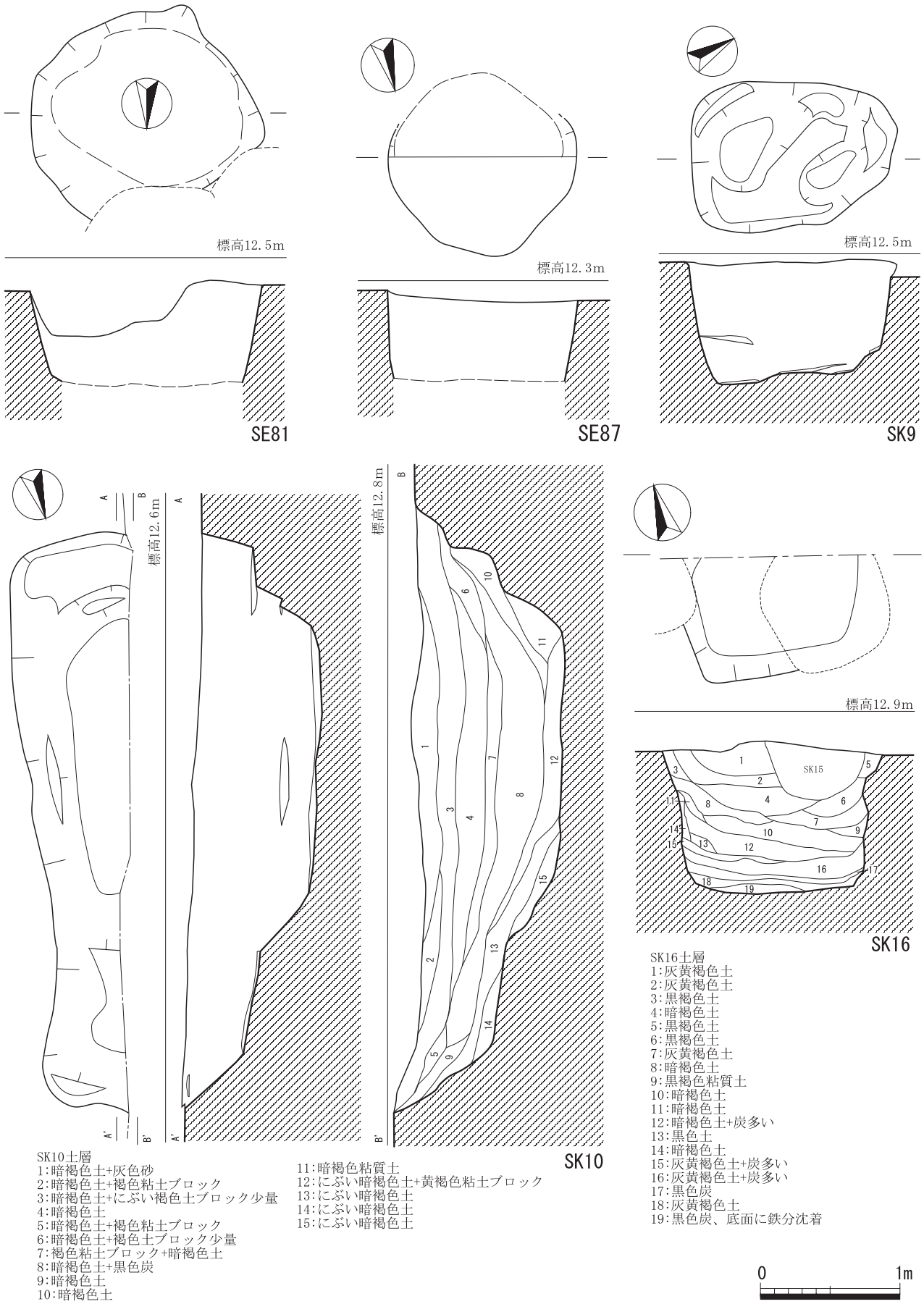
パンコンテナー70箱分の遺物が出土した。鉄滓、鉄製品等が50箱と主体を占め、近世陶磁器は20箱である。詳細は遺物観察表を参照されたい。以下、特記すべき遺物について述べる。



第3図　調査区遺構配置図（1/100）



第4図　SD34、SD35、SD37、SE70遺構実測図(1/20、1/40)

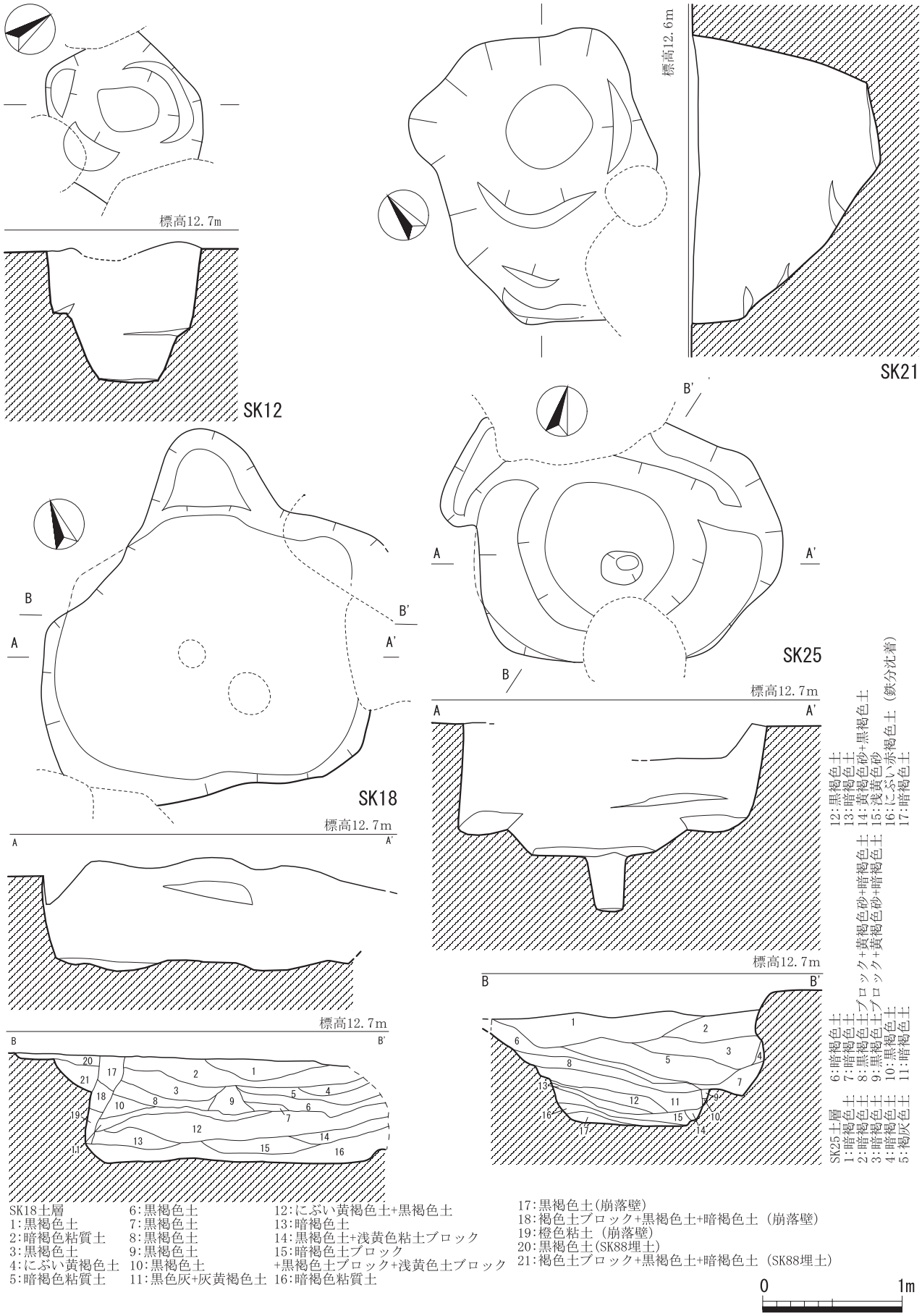


SK10土層
1:暗褐色土+灰色砂
2:暗褐色土+褐色粘土ブロック
3:暗褐色土+にぶい褐色土ブロック少量
4:暗褐色土
5:暗褐色土+褐色粘土ブロック
6:暗褐色土+褐色土ブロック少量
7:褐色粘土ブロック+暗褐色土
8:暗褐色土+黒色炭
9:暗褐色土
10:暗褐色土
11:暗褐色粘質土
12:にぶい暗褐色土+黄褐色粘土ブロック
13:にぶい暗褐色土
14:にぶい暗褐色土
15:にぶい暗褐色土

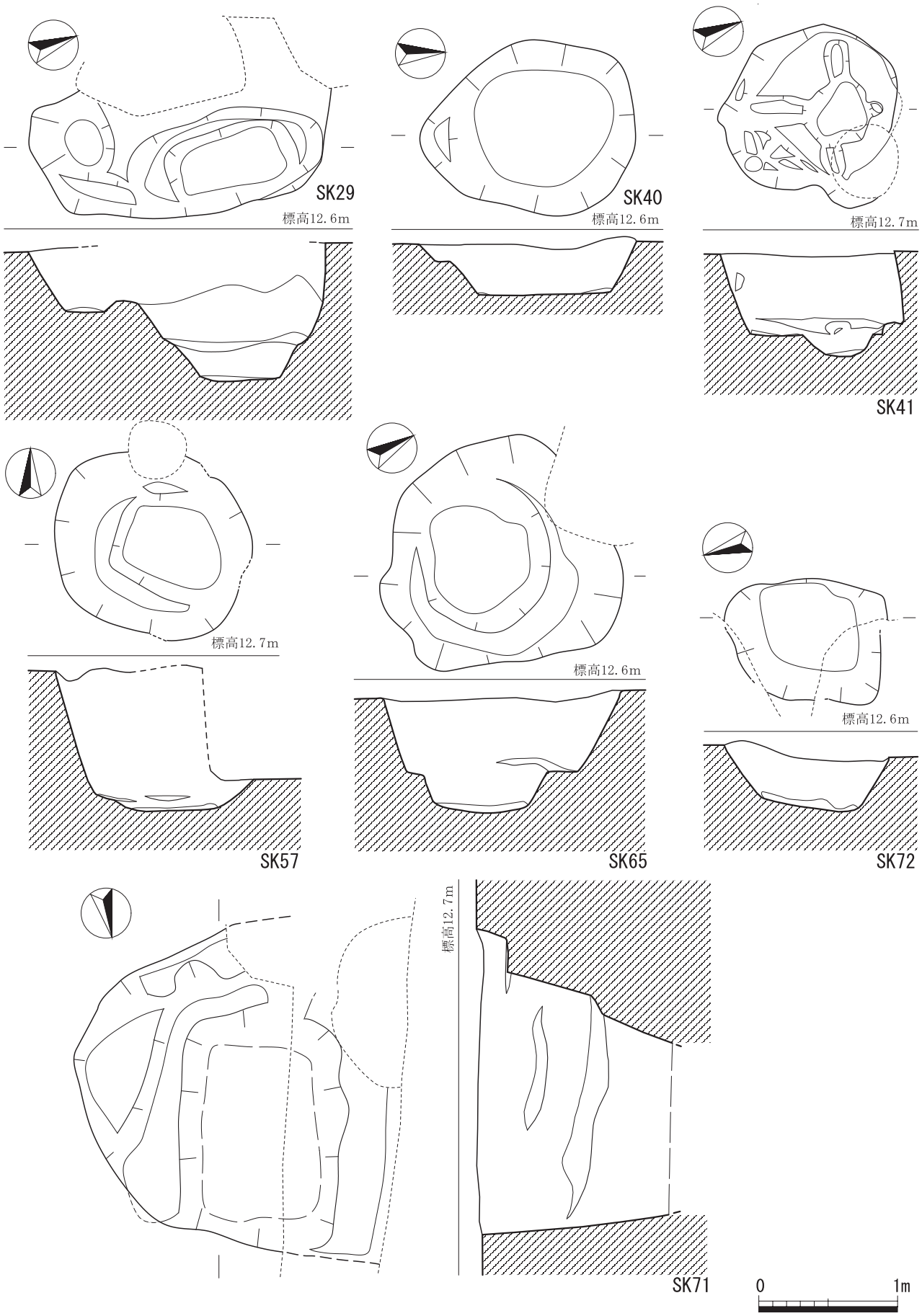
SK16土層
1:灰黄褐色土
2:灰黄褐色土
3:黒褐色土
4:暗褐色土
5:黒褐色土
6:黒褐色土
7:灰黄褐色土
8:暗褐色土
9:黒褐色粘質土
10:暗褐色土
11:暗褐色土
12:暗褐色土+炭多い
13:黒色土
14:暗褐色土
15:灰黄褐色土+炭多い
16:灰黄褐色土+炭多い
17:黒色炭
18:灰黄褐色土
19:黒色炭、底面に鉄分沈着

0　1m

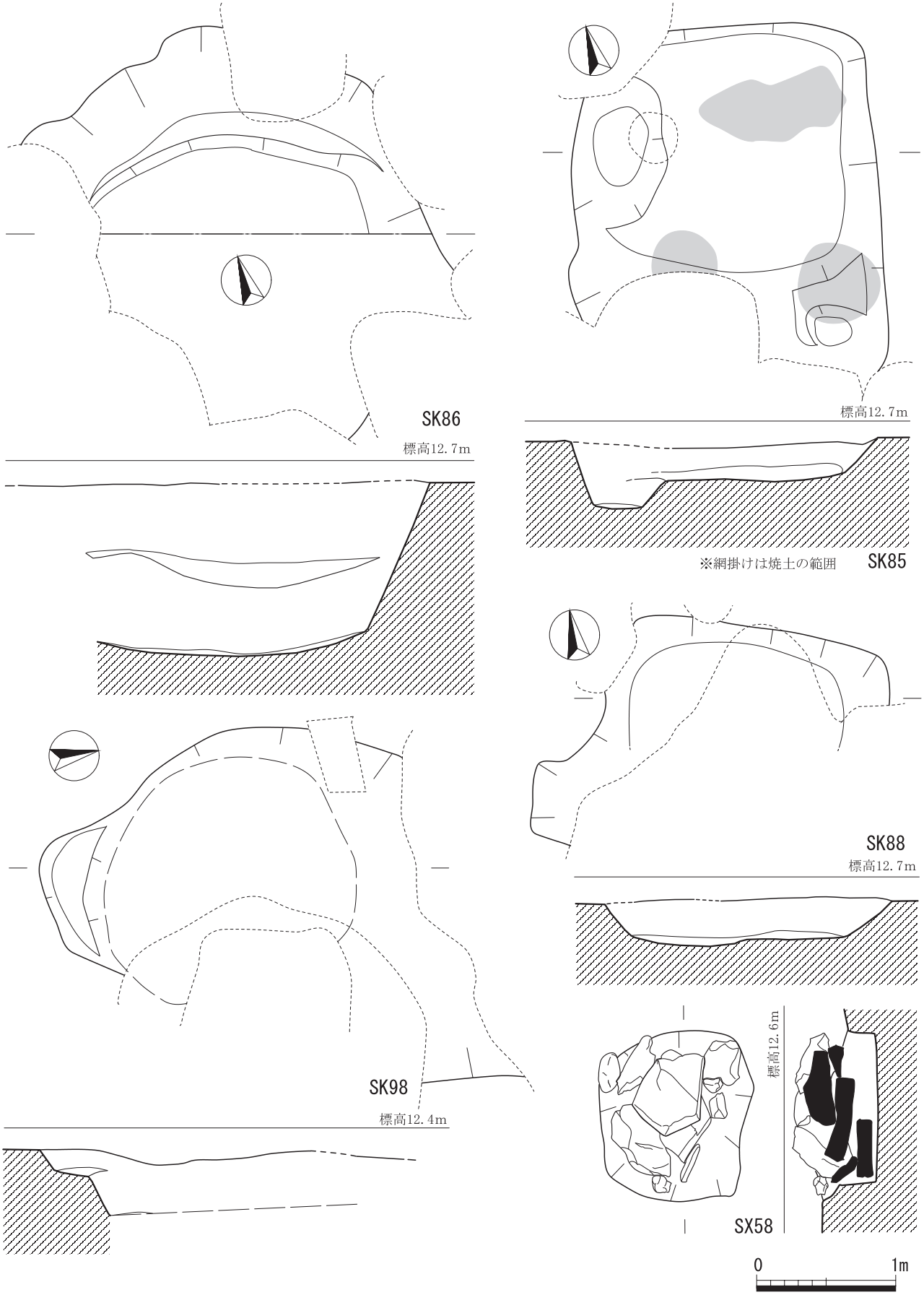
第5図　SE81、SE87、SK9、SK10、SK16遺構実測図（1/40）



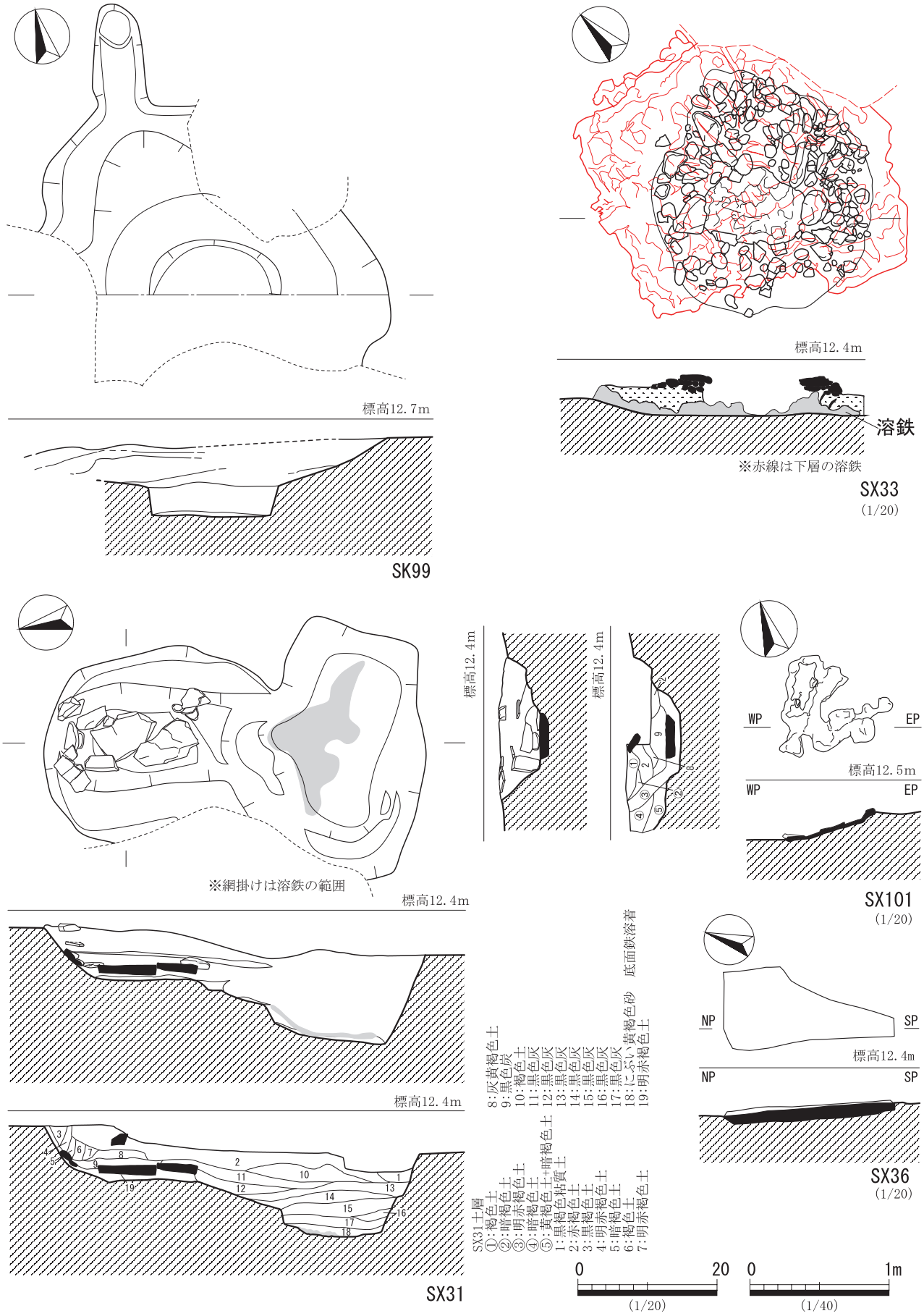
第6図　SK12、SK18、SK21、SK25遺構実測図(1/40)



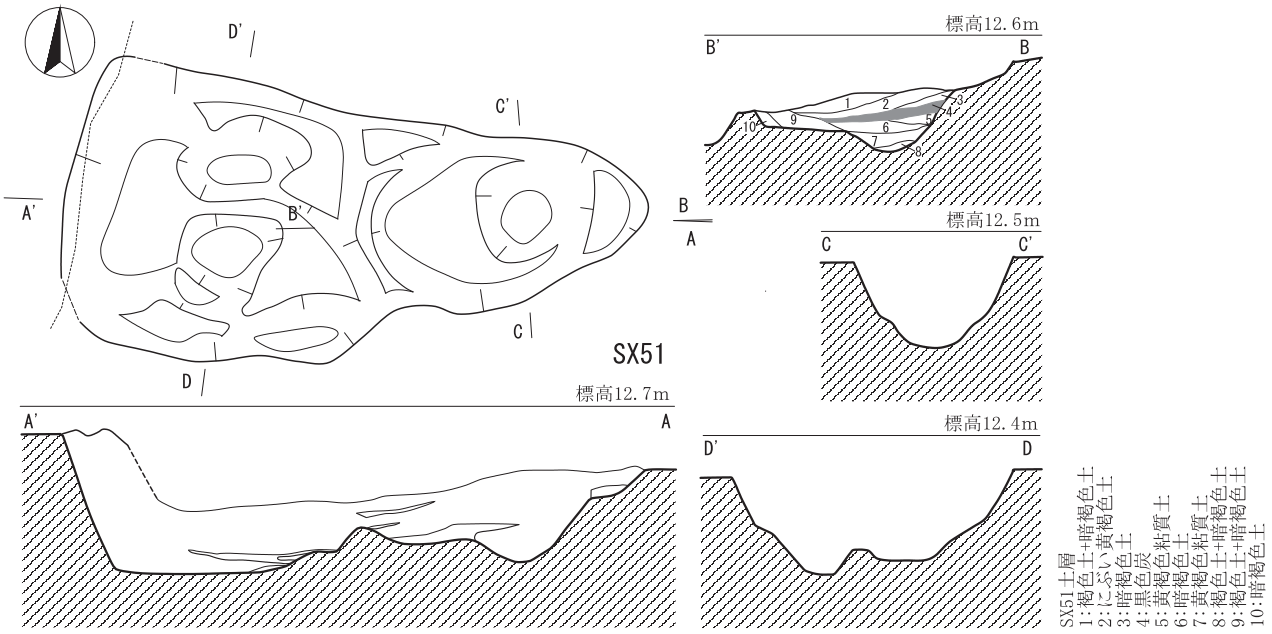
第7図　SK29、SK40、SK41、SK57、SK65、SK71、SK72遺構実測図（1/40）

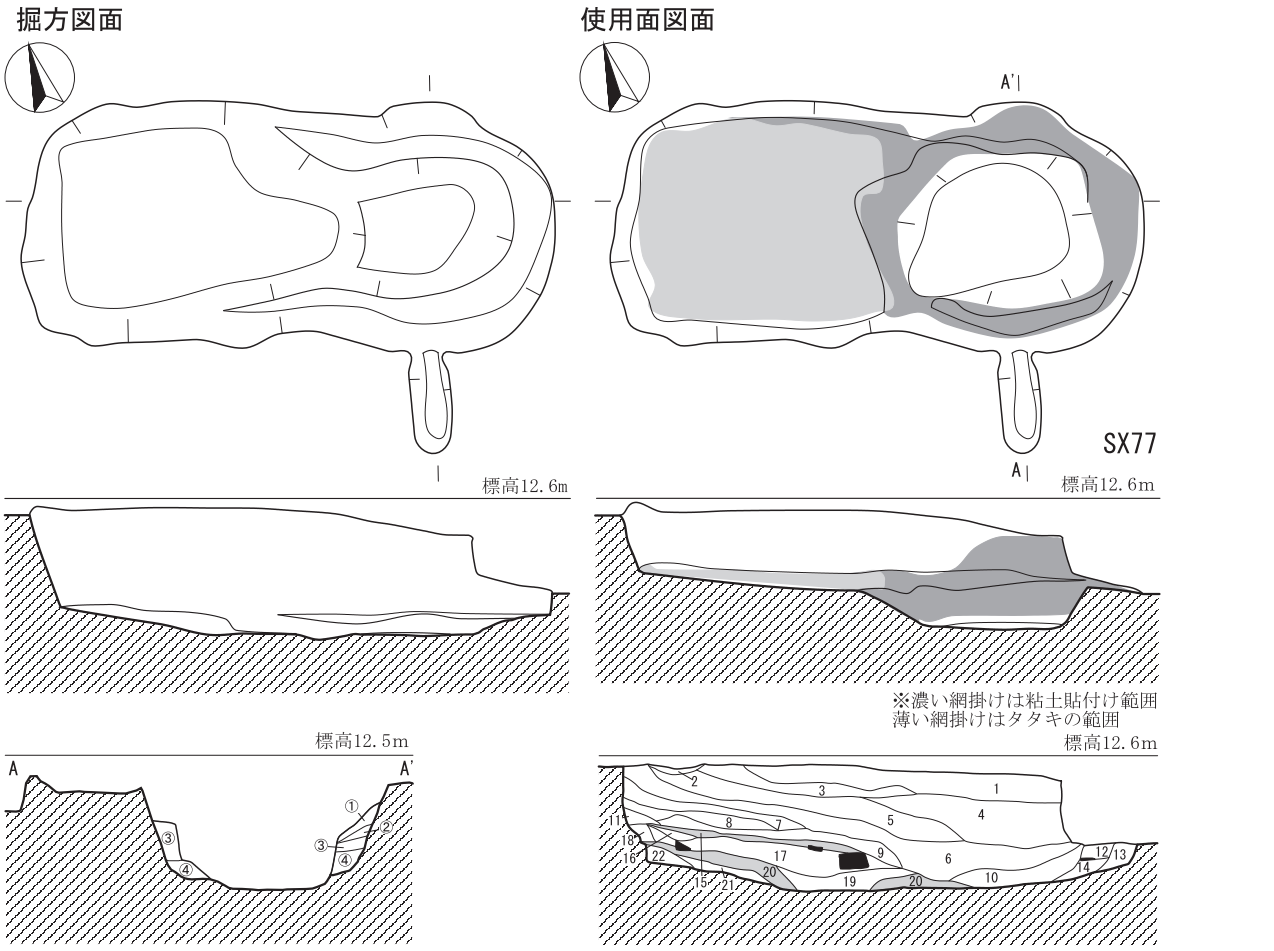


第8図　SK85、SK86、SK88、SK98、SX58遺構実測図（1/40）



第9図　SK99、SX31、SX33、SX36、SX101遺構実測図（1/20、1/40）





SX77土層
①:暗褐色土
②:黒褐色土
③:黒色土
④:13と同一層　明黄褐色土+暗褐色土
1:黒褐色土
2:褐色粘土
3:黒褐色土+褐色土ブロック
4:暗褐色土
5:暗褐色土+褐色土ブロック
6:暗褐色土
7:暗褐色土
8:暗褐色土
9:暗褐色土
10:暗褐色土
11:黒褐色土
12:明赤褐色土+暗褐色土
13:明黄褐色土+暗褐色土
14:明赤褐色土+暗褐色土
15:暗褐色土+黒色砂（タタキ）
16:暗褐色土+黒色砂
17:暗褐色粘質土
18:暗褐色土
19:暗褐色砂+明赤褐色土
20:暗褐色土+黒色砂+炭化物（タタキ？）
21:黒褐色粘質土
22:暗褐色土+黄褐色砂

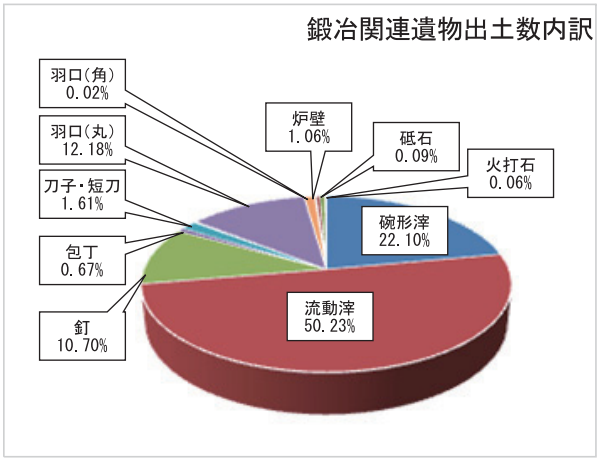
0　1m

第10図　SX51、SX77遺構実測図（1/40）

第1表　主要遺構一覧表

掲載図	種別記号	遺構番号	遺構の性質	軸方向	平面形	断面形	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	切り合い	備考	遺物の年代	特記遺物
第 4 図	S D	34	溝	−15	直線的	逆台形	1.4	0.5以上	3cm	SK97に切られる	浅い	幕末	羽口
第 4 図	S D	35	溝	−16	直線的	逆台形	1.6	0.5	0.5	SK88を切る	底部に溶鉄が大量に付着。廃滓溝か	18 世紀中頃	鉄滓大量
第 4 図	S D	37	溝	屋敷地に直交 +17	直線的	逆台形	4.0以上	0.7	0.23	土坑、SK97を切る	上から掘り込み。竹筒痕跡、石列。送風施設か	18 世紀後半	
第 3 図	S E	11	井戸	-	円形	直	1.4	1.4	0.9以上	SK69に切られる SK85を切る	1m以下未掘。素掘り。掘方なし	19 世紀前半	
第 3 図	S E	24	井戸(撹乱)	-	円形	直	0.7	0.7	0.5以上	SK25を切る	素掘り	戦前	
第 3 図	S E	27	井戸	-	円形	直	1.3	1.3	1.0以上	SX58に切られる SK26を切る	漆喰壁	幕末以降	
第 4 図	S E	70	井戸	-	円形	直	堀方2.7以上 本体1.3	堀方2.1以上 本体1.1	1.2以上	SK89SK90を切る	埋土真砂。素掘り。1.2以下未掘	18 世紀後半	
第 5 図	S E	81	井戸	-	円形	直	1.6	1.6	0.9以上	SK18、SK60に切られる SK25SK26を切る	素掘り。未掘。掘方なし	17 世紀後半	
第 5 図	S E	87	井戸	-	円形	直	1.4以上	1.3	0.9以上	SK51に切られる	素掘り。掘方なし。未掘	18 世紀中頃	
第 5 図	S K	9	土坑	-	隅丸方形	逆台形	1.5	1	0.9	SP44を切る		19 世紀前半	
第 5 図	S K	10	土坑	-	方形	逆台形	4	0.7	0.9	SK23を切る		18 世紀中頃	鉄滓大量出土
第 6 図	S K	12	土坑	-	円形	逆台形	1.0	1.0	0.9	SK11に切られる		19 世紀前半	
第 3 図	S K	14	土坑	-	方形	逆台形	1.9	0.6以上	0.6以上	SK8を切る	0.5m以下未掘	18 世紀中頃	
第 3 図	S K	15	土坑	-	隅丸方形	逆台形	0.8	0.8	0.4	SK16を切る	かなり上から掘り込み	幕末	貝多い
第 5 図	S K	16	土坑	-	方形	直	1.5	0.9	0.8	SP54に切られる SK15に切られる	埋土に鉄滓、炭多い	18 世紀後半	鉄滓多い
第 6 図	S K	18	土坑	-	方形	袋状	2.6	2.3	0.8	SK88を切る	遺物多い。埋土に鉄滓、炭多い	幕末	鉄滓
第 6 図	S K	21	土坑	-	隅丸方形	逆台形	2.1	1.6	1.3	SK93、SK94を切る SK57に切られる	深い。鉄滓多い	19 世紀前半	鉄滓
第 3 図	S K	22	土坑	-	楕円形	不明	1.6	1.3	0.18以上	SK80に切られる	0.18m以下未掘	19 世紀前半	
第 3 図	S K	23	土坑	-	方形	逆台形	1.6	0.9	1.3以上	SK10に切られる	1.3m以下未掘。深い	18 世紀後半	
第 6 図	S K	25	土坑	-	楕円形	袋状	2.1	1.7	1.3	SE81に切られる SK26、SK86に切られる		18 世紀後半	鉄滓
第 3 図	S K	26	土坑	-	楕円形	逆台形	2	1.6	1	SK25、SK81、SE27に切られる	上面に焼土と灰集積	幕末	鉄滓
第 7 図	S K	29	土坑	-	隅丸方形	逆台形	2.1	0.7	1	SK28に切られる SK72を切る	遺物の漆喰壁は炉壁か？	幕末	漆喰壁大量出土
第 3 図	S K	39	土坑	-	楕円形	逆台形	1.7	1	0.5	SK66に切られる SK76を切る	埋土中に20cm大の礫多い。炭あり	19 世紀前半	
第 7 図	S K	40	土坑	-	円形	逆台形	1.5	1.2	0.4	SK65、SK76を切る		18 世紀後半	羽口
第 7 図	S K	41	土坑	-	円形	袋状	1.3	1.3	0.8	SK99を切る SP42に切られる	底面特殊な形	17 世紀か	
第 3 図	S K	43	土坑	-	楕円形	逆台形	1.5	0.7	0.7	SE69に切られる	遺物多い	19 世紀前半	
第 7 図	S K	57	土坑	-	円形	逆台形	1.4	1.2	1	SK21、SK80、SK91を切る SX4に切られる	深い	18 世紀中頃	
第 7 図	S K	65	土坑	-	円形	逆台形	1.7	1.6	0.9	SK90を切る SK40に切られる		19 世紀前半	
第 7 図	S K	71	土坑	-	楕円形	逆台形	2.4以上	2.1	1.4	SK72を切る SK21、SK57を切る	1.4以下未掘。内部方形	18 世紀後半	
第 7 図	S K	72	土坑	-	隅丸方形	逆台形	1.1	0.8	0.5	SK29、SK71に切られる		19 世紀	漆喰壁片多い
第 3 図	S K	80	土坑	-	楕円形	逆台形	1.3	1.4	0.7	SK57に切られる SK22、SK91を切る		幕末以降	
第 8 図	S K	85	土坑	-	隅丸方形	逆台形	2.4以上	2.2	0.3	SX3、SE11、SE69、SE27、SX58に切られる	浅い	18 世紀前半	
第 8 図	S K	86	土坑	-	円形	袋状	2.9以上	2.8以上	1.2以上	SK1、SK25、SK39、SK55、SK56、SK60、SE81に切られる	黒色埋土	17 世紀前半	溝縁皿
第 8 図	S K	88	土坑	-	隅丸方形	逆台形	2.3以上	1.6以上	0.3	SK1、SK18、SD35に切られる	黒色埋土。浅い	17 世紀前半	
第 8 図	S K	98	土坑	-	不整円形	逆台形	2.6以上	1.7以上	0.5以上	SE70、SK89に切られる	黒色埋土	17 世紀後半	
第 9 図	S K	99	土坑	-	楕円形	逆台形	2.4以上	1.9以上	0.5以上	SK40、SK41、SK65に切られる		17 世紀前半	
第 9 図	S X	31	炉	-	不整形	逆台形	2.7	1.5	0.8	SK84に切られる	埋土赤褐色	幕末	
第 9 図	S X	33	石組み	-	環状	-	0.9	0.9	0.1	SK73の上面に乗る	石組みの下に鉄分沈着	18 世紀後半	
第 9 図	S X	36	金床石	-	-	-	0.6	0.3	-	土坑の上面に乗る	片岩。掘方不明	不明	
第 10 図	S X	51	炉	5.8	不整形	逆台形	3	1.5	0.9	SE87、SK89、SK98を切る	東側に底面被熱、炭多い	19 世紀前半	羽口
第 8 図	S X	58	石組み	-	楕円形	すり鉢状	0.7	0.5	0.3	SE27を切る	礎石？金床石？	19 世紀	
第 10 図	S X	77	炉	18	隅丸方形	逆台形	2.7	1.2	0.6	SK56に切られる	作業面にタタキあり	18 世紀前半	羽口
第 9 図	S X	101	溶鉄	-	不整形	-	0.4	3.5	-	土坑の上面に乗る		不明	

鍛冶関連の資料が大半を占めるため、種別ごとに述べる。陶磁器は17世紀から19世紀の各時期のものが出土している。土製品はSK80出土の恵比寿土面が注目される。きめ細かい胎土で、表面は丁寧にナデが施され、裏面はユビオサエが残る。富山市千石遺跡出土品に類似する。次に鍛冶関連遺物について述べる。鉄製品は、釘、包丁、短刀、環状鉄製品の順に多く、鎌、十能（じゅうのう）、鋏（はさみ）、鑿（たがね）、楔（くさび）、鋤（かすがい）、斧などがそれに次ぐ。そのうち、商品となるか、又は原料として再使用される可能性がある製品が釘、包丁、短刀、鎌、楔、鋤、鋏、斧であり、鍛冶道具とみられるものは十能、鑿である。鉄滓は碗形滓と流動滓が合計10,123点（457kg）出土した。以下に傾向を記す。実測図は紙面の都合上、一部しか報告できていない。今回出土した碗形滓の特徴としては、800g程度の分量になるよう鋭利な刃物で切断した痕跡を有するものが多く、廃棄する際の便宜を図ったものとみられる。また、炭や小礫を多く含む。復元直径は30cm程度になるものが多い。流動滓は平均16gと小型のものが多い。羽口の大半は、焼が甘く長さ10cmで外形が円筒形を呈するが、4点のみ外形が断面方形を呈し、焼き締められたもの（71・161）が出土している。炉壁は焼きが甘く砂質で、針で開けたとみられる角柱状の穿孔がみられる。燃料は木炭、石炭、ボタ、珪化木、部材は石製と土製の方形のものが出土している。



総点数（個）

碗形滓	3,093
流動滓	7,030
計	10,123

総重量（g）

碗形滓	341,522
流動滓	115,882
計	457,404

1個当たりの平均重量（g）

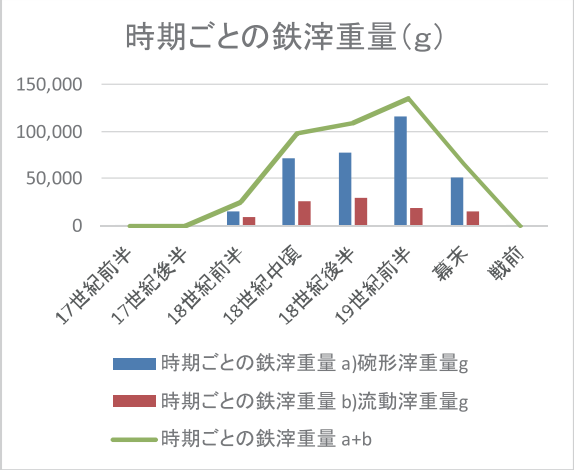
碗形滓	110
流動滓	16

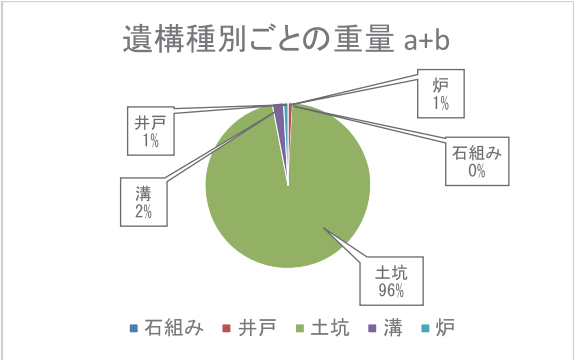
時期ごとの鉄滓重量（g）

	a)碗形滓重量	b)流動滓重量	a+b
17世紀前半	292	50	342
17世紀後半	0	0	0
18世紀前半	15,610	9,826	25,436
18世紀中頃	71,975	26,283	98,258
18世紀後半	78,567	30,388	108,955
19世紀前半	116,796	19,814	136,610
幕末	51,517	15,017	66,534
戦前	160	0	160

遺構種別ごとの重量（g）

	a+b
石組み	470
井戸	4,164
土坑	430,929
溝	10,284
炉	3,390

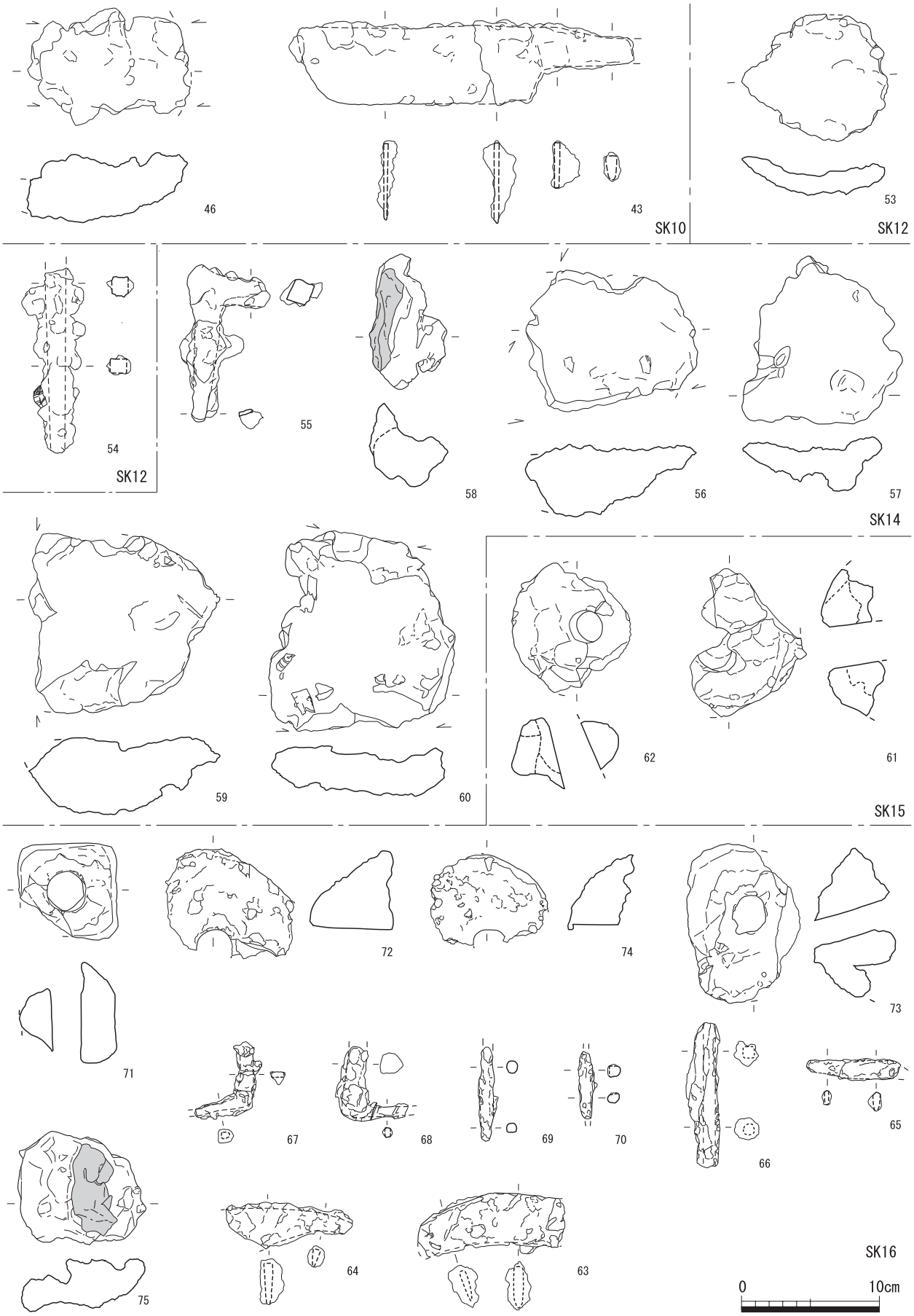




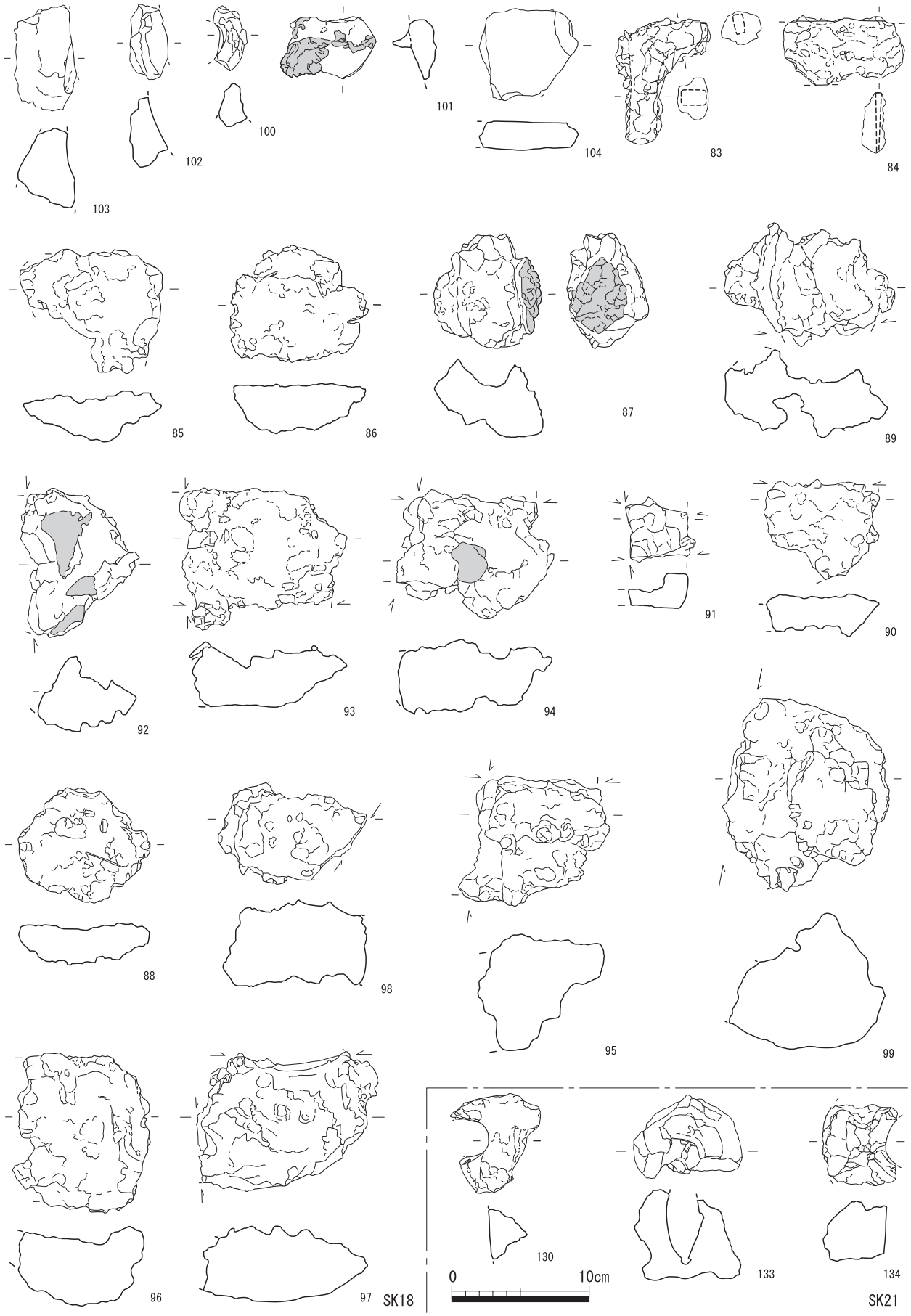
第２表　鍛冶関連遺物出土数表

遺構番号	遺構種別	時期	碗形滓個数	碗形滓重量g	流動滓個数	流動滓重量g	釘	包丁	刀子・短刀	環状製品	円盤状製品	鎌	鎹	十能	鋏	鑿	楔	斧	鍬	羽口（丸）	羽口（角）	炉壁	部材	木炭	石炭など	坩堝	砥石	火打石
1	土坑	18世紀	3		8		5	1																				
2	埋甕	19世紀					1																					
3	埋甕	19世紀																										
4	埋甕	19世紀																										
5	ピット																											
6	ピット																											
7	撹乱	戦前	6	160			4																					
8	土坑	18世紀後半	6	190			2													2								
9	土坑	19世紀前半	52	3,852	45	980	27	1	1														5					
10	土坑	18世紀中頃	101	11,470	61	3,480	7	2												254		14						
11	井戸	19世紀前半					4																					
12	土坑	19世紀前半	50	5,100	118	2,990	26	9																				
13	漆喰板	19世紀																										
14	土坑	18世紀中頃	64	10,830	41	1,920	10	2												6								
15	土坑	幕末	21	900	59	580	15	2		1	2									48								
16	土坑	18世紀後半	29	2,500	325	5,600	82	14												51								
17	ピット						3	1															1					
18	土坑	幕末	193	28,700	607	2,700	131	23								1				152		29		8			1	
19	ピット																											
20	ピット		1																									
21	土坑	19世紀前半	779	102,000	923	13,600	126	1	61						1					136		3		29				1
22	土坑	19世紀前半	22	1,144	22	734	10	2	1											5		2					1	
23	土坑	18世紀後半	118	7,865	77	2,995	29		11	3										40								
24	井戸（撹乱）	戦前					22		6																			
25	土坑	18世紀後半	119	9,380	533	4,960	97	14	4											62								1
26	土坑	幕末	39	3,800	132	1,800	39	2	4	1									1	46		3						
27	井戸	幕末	42	3,397	201	2,920	12	1	11										2	38		1						
28	土坑	幕末					2																	5				
29	土坑	幕末	137	10,420	278	4,917	35	1	7											158		31						
30																												
31	炉	幕末	22	1,000	14	200	1													17			7	5	36			
32	粘土床																											
33	石組み	18世紀後半																										
34	溝	幕末	12	1,000	65	1,400	1													46								
35	溝	18世紀中頃	108	6,184	289	2,700	4													78				1				
36	金床石	不明	1	120	2	20																						
37	溝	18世紀後半	6	400	5		8																					
38	土坑		24	1,450	68	600																						
39	土坑	19世紀前半	16	1,100	31	260	15	3	1													1						
40	土坑	18世紀後半	8	400	19	200	37			1											4	1						
41	土坑	17世紀	2				18																1		1			
42	ピット																											
43	土坑	19世紀前半	17	3,100	37	550																	1		1			
44	ピット																											
45	ピット						1															1						
46	ピット																											
47	ピット																											
48	ピット																											
49	ピット		2	150																								
50	ピット				2																							
51	炉	19世紀前半	14	500	129	700	70	6								1				6		2						1
52	ピット																											
53	ピット																											
54	ピット																											
55	土坑		3	300	14	200																					1	
56	土坑		2		4																							
57	土坑	18世紀中頃	231	30,921	491	16,223	101		41	2				2						27		2	1	5	2			2
58	石組み	19世紀	4	300	10	170																						
59	土坑		5	260	50	400	27															5						
60	土坑		38	2,800	156	12,250	34		3			1								38								
61	土坑						3		1													3						
62	ピット		1																									
63	ピット		3																									
64	ピット		1																						2			
65	土坑	19世紀前半	15		16		35	2	2													1						
66	土坑		2				1																					
67	ピット																											
68	ピット		1																									
69	井戸	19世紀	4	234	23	330	5	1																				
70	井戸	18世紀後半	32	3,200	20	400	3													8					1			
71	土坑	18世紀後半	327	36,312	1,042	11,203	92	2	52	2					1				2	149		9				1	3	1
72	土坑	19世紀	17	991	50	534	68	2												65								
73	土坑	18世紀後半	40	3,000	95	1,600	19													62		4		1				1
74	土坑	18世紀後半		10,600	155	2,400	26		3	2										28		3		2	2			1
75	土坑	18世紀後半	16	970	28	250	9			1												12						
76	土坑	18世紀			7		1		2																			
77	炉	18世紀前半	4	270	42	720	22																2		23			
78	土坑	17世紀後半																										
79	土坑	17世紀	7		37		40			1																		
80	土坑	幕末	12	2,300	23	500	28													4		6						
81	井戸	17世紀後半	1				29	1	1											1		2					2	
82	土坑	18世紀前半	86	10,715	218	4,421	17									2				23					1			
83	ピット		4		1		2													5								
84	土坑	18世紀前半	72	4,055	282	4,145	31		3	1										94							1	
85	土坑	18世紀前半	13	570	35	540	14																					
86	土坑	17世紀前半	2	292	5	50	13	1	3																		2	
87	井戸	18世紀中頃	1				1																					
88	土坑	17世紀前半																										
89	土坑	18世紀前半	9		19		8		1																			
90	土坑	18世紀後半	41	3,750	49	780	9		3											12							1	
91	土坑	17世紀後半	8		15		3		1																			
92	ピット																											
93	土坑	18世紀中頃	77	12,570	43	1,960	6									1				38		14			1			
94	土坑	18世紀中頃							1																			
95	ピット	18世紀中頃			7															5								
96	ピット																											
97	土坑	不明																										
98	土坑	17世紀後半			2		7		2																		1	
99	土坑	17世紀前半																										
100	ピット																											
101	溶鉄	不明																										
計			3,093	341,522	7,030	115,882	1,498	94	226	15	2	1	2	1	1	5	0	2	3	1,704	4	149	18	56	70	1	13	8

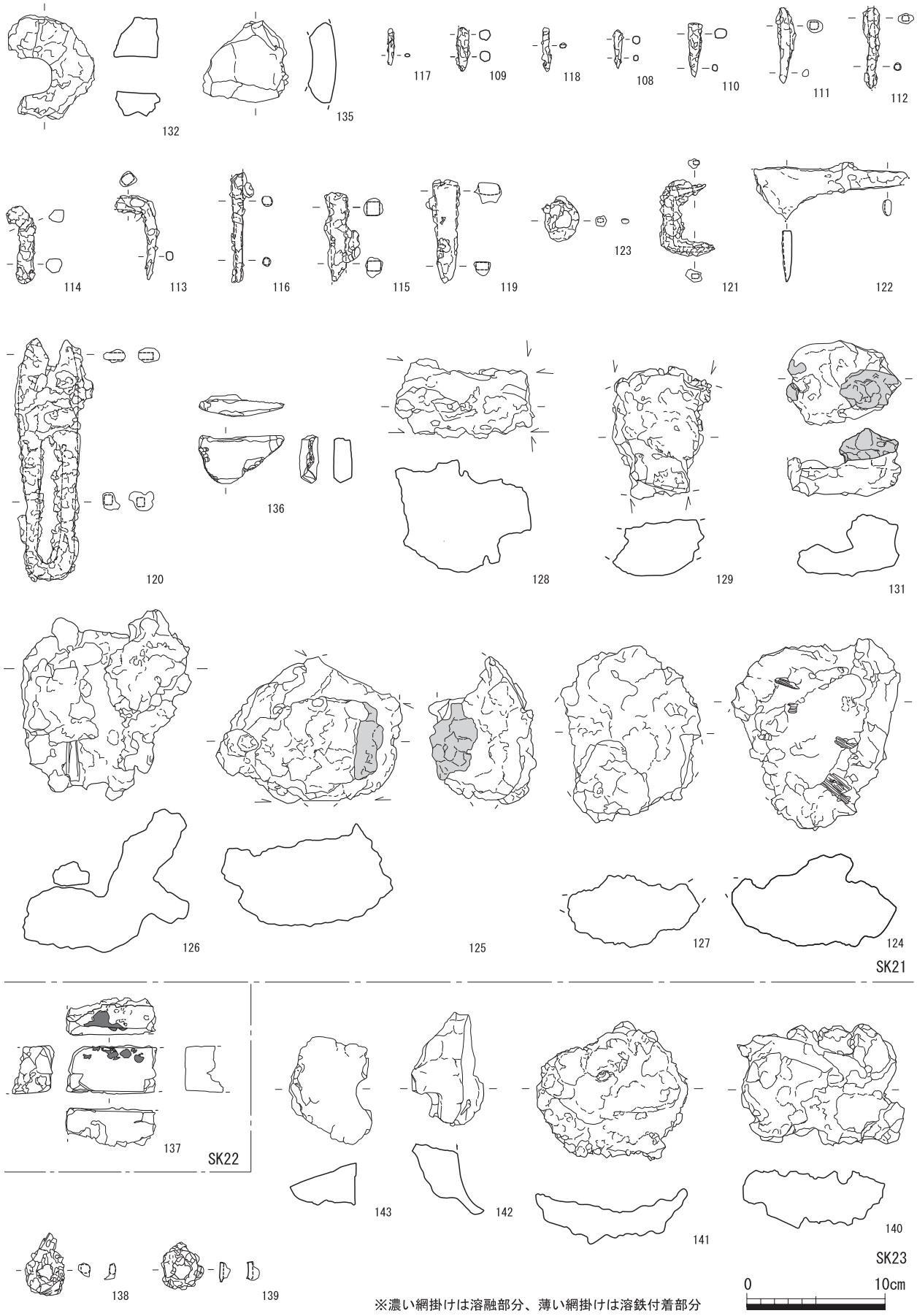
第11図　出土遺物実測図（1/4）



第12図　出土遺物実測図（1/4）

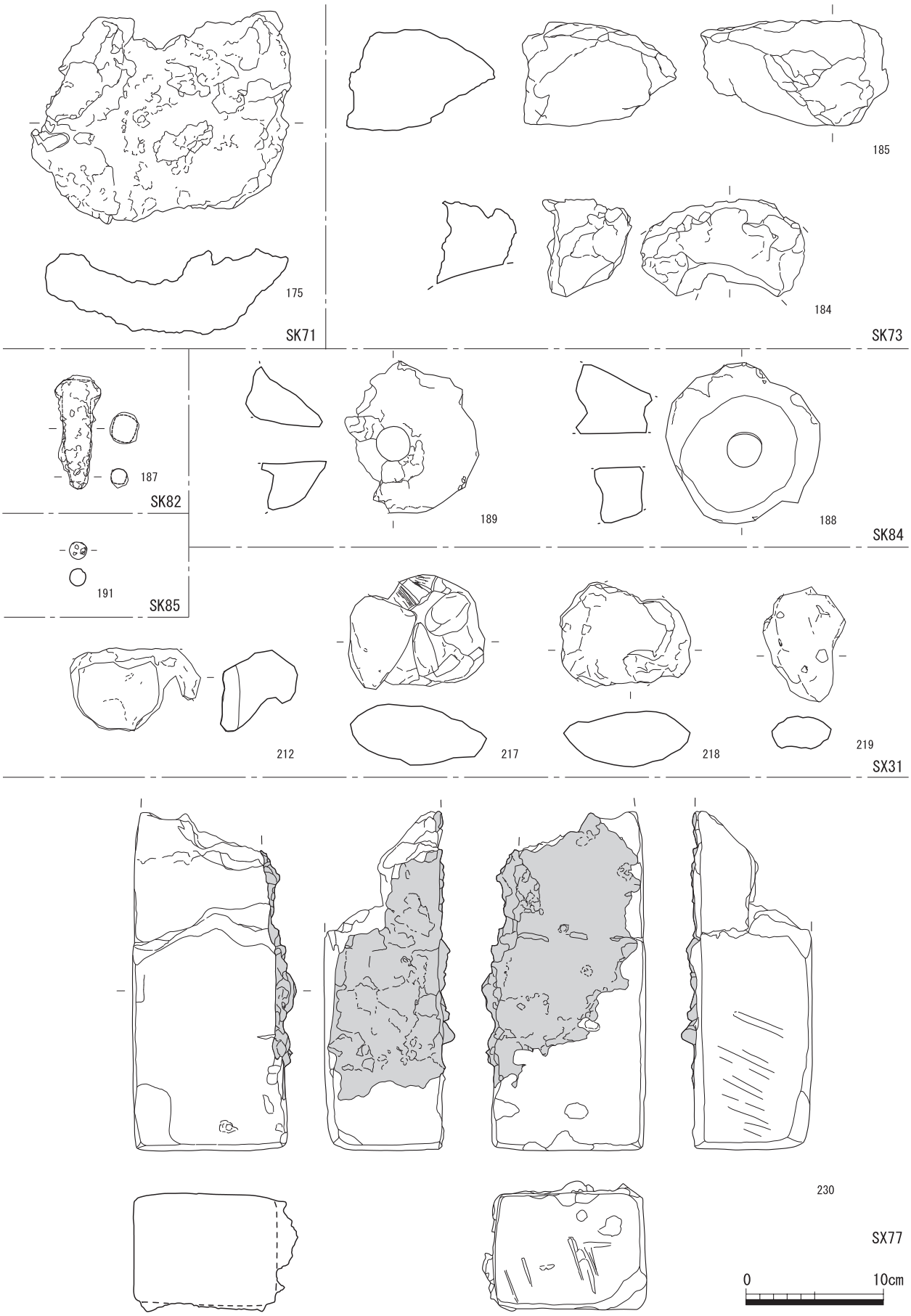


第13図　出土遺物実測図（1/4）



第14図　出土遺物実測図（1/4）

第15図　出土遺物実測図（1/4）



第16図　出土遺物実測図（1/4）

第3表　出土遺物観察表①

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整(文様)			胎土・備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面高台		
					(長)	(幅)	(厚)					内印銘等		
1	第11・46図	近代整地層	鉄製品	十能	(19.5)	[16.4]	—	—	—	—	—	—	600g	201711000030
2	第11・46図	SD34	鉄製品	碗形滓	(9.4)	(8.9)	(4.7)	—	—	—	—	—	368.0g	201711000958
3	第　46　図	SD35	磁器	碗	(10.8)	(4.3)	5.4	染付	染付	梅・山・草	—	—	18ｃ前半～中頃	201711000990
4	第　46　図	SD35	磁器	碗	—	(3.9)	(1.9)	染付	染付	氷裂菊花	氷裂菊花	—	18ｃ前半～中頃	201711000991
5	第11・46図	SD35下層	鉄製品	碗形滓	(11.5)	(7.3)	(4.4)	—	—	—	—	—	386.0g	201711000978
6	第11・46図	SD35下層	土製品	炉壁	(6.2)	(5.2)	3.1	—	—	—	—	—	白色砂粒を多く含む	201711000987
7	第11・46図	SD35下層	土製品	羽口	(6.6)	(4.6)	4.2	—	—	—	—	—	白色砂粒を多く含む	201711000988
8	第11・46図	SE24	鉄製品	短刀	(21.0)	3.7	2.1	—	—	—	—	—	120g	201711000749
9	第11・46図	SE24	鉄製品	短刀	(10.9)	3.1	2.3	—	—	—	—	—	72g	201711000750
10	第11・46図	SE24	鉄製品	短刀	(10.1)	3.3	1.4	—	—	—	—	—	33.1g	201711000751
11	第11・46図	SE24	鉄製品	刀子	(9.6)	2.5	1.6	—	—	—	—	—	60.95g	201711000752
12	第11・46図	SE24	鉄製品	釘	10.5	4.4	2.2	—	—	—	—	—	47.45g	201711000756
13	第11・46図	SE24	鉄製品	平板状製品	(15.5)	12.6	4.2	—	—	—	—	—	332g	201711000758
14	第11・46図	SE27	土製品	羽口	(9.2)	(7.8)	5.3	—	—	—	—	—	244g	201711000866
15	第　46　図	SE70掘方	磁器	碗	—	(3.2)	(2.3)	染付	染付	こんにゃく印判花	—	—	18c中頃～後半	201711001191
16	第　46　図	SE70掘方	磁器	碗	—	—	(3.0)	染付	染付	草・岩	—	—	18c中	201711001192
17	第　46　図	SE70掘方	陶器	小碗	(7.4)	(3.6)	3.9	藁灰釉	藁灰釉	—	—	高台無釉		201711001193
18	第　46　図	SE70掘方	陶器	小碗	6.5	3.0	3.7	藁灰釉	藁灰釉	—	—	高台無釉		201711001194
19	第　46　図	SE70掘方	石製品	ボタ	(8.9)	(4.2)	(3.8)	黒	黒	—	—	—	144g	201711001195
20	第　46　図	SE81	磁器	碗	11.4～11.8	4.9	6.1	染付	染付	圏線	—	—	17c	201711001381
21	第　46　図	SE87	磁器	碗	(10.0)	4.2	4.7	染付	染付	鶴・桐？・草	—	—	18c中頃	201711001482
22	第　46　図	SE87	磁器	碗	(8.8)	—	(3.8)	染付	染付	草花	—	—	18c中頃	201711001483
23	第　46　図	SE87	磁器	碗	—	—	(3.2)	染付	染付	口紋・草花	—	—	18c中頃朝妻焼	201711001484
24	第　46　図	SE87	磁器	皿	—	—	(3.3)	染付	染付	文様あり	—	—	18c中頃朝妻焼	201711001485
25	第　46　図	SE81	陶器	碗	(13.8)	5.2	6.1	藁灰釉	藁灰釉	—	—	高台畳付釉かき	17c	201711001386
26	第　46　図	SE81	陶器	皿	14.1	5.3	4.1	銅緑釉・白土化粧	銅緑釉・白土化粧	—	蛇ノ目釉剥	兜巾	17c後半	201711001387
27	第　46　図	SE81	陶器	火入	11.8	5.6	7.1	藁灰釉・白土化粧	藁灰釉・白土化粧	刷目文	自然釉付着	高台無釉	17c中～後半	201711001388
28	第11・46図	SE81	鉄製品	短刀	24.9	4.4	1.4	—	—	—	—	—	130g	201711001404
29	第　46　図	SK9	磁器	碗	(11.4)	6.3	6.5	染付	染付	草花	十字花	—	18c末～19c初広東碗	201711000007
30	第　46　図	SK9	磁器	碗	11.2	(4.1)	6.0	青磁染付	青磁染付	—	五弁花・圏線	—	18c後半くらわんか手	201711000008
31	第　46　図	SK9	磁器	円筒碗	7.3	3.5	5.8	染付	染付	松・岩・水	五弁花・圏線	松葉	18c	201711000011
32	第11・46図	SK9	鉄製品	釘	(7.8)	0.8	0.5	—	—	—	—	—	24g	201711000048
33	第11・46図	SK9	鉄製品	釘	(6.0)	0.5	0.3	—	—	—	—	—	8.0g	201711000050
34	第11・46図	SK9	鉄製品	釘	(6.9)	0.5	0.7	—	—	—	—	—	8.0g	201711000051
35	第11・46図	SK9	鉄製品	刀子	(10.3)	0.8	0.4	—	—	—	—	—	14.0g	201711000052
36	第11・46図	SK9	鉄製品	碗形滓	10.3	(8.8)	5.3	—	—	—	—	—	504.0g	201711000040
37	第11・46図	SK9	鉄製品	碗形滓	8.8	(7.5)	6.2	—	—	—	—	—	292.0g	201711000041
38	第11・46図	SK9	土製品	部材	(13.1)	7.0	—	—	—	—	—	—	386g	201711000043
39	第　46　図	SK10	陶器	碗	(10.4)	8.4	6.7	藁灰釉	藁灰釉	—	—	高台内無釉		201711000026
40	第　46　図	SK10	陶器	碗	(10.6)	5.0	6.7	透明釉	透明釉	—	—	高台畳付釉かき	18c前半	201711000027
41	第　46　図	SK10	磁器	鉢	—	8.5	(4.5)	染付	染付	鶴・草花	花・圏線	高台畳付釉かき	17c	201711000021
42	第　46　図	SK10	磁器	皿	(12.2)	(7.8)	2.4	染付	染付	蔓草	蛸唐草・菊	「大明成化年製」	18c前半	201711000023
43	第12・47図	SK10	鉄製品	畳切包丁	(25.0)	5.4	2.0	—	—	—	—	—	214.0g	201711000115
44	第11・47図	SK10	鉄製品	碗形滓	10.7	(7.8)	4.0	—	—	—	—	—	374.0g	201711000104
45	第11・47図	SK10	鉄製品	碗形滓	(7.1)	(8.0)	(4.5)	—	—	—	—	—	286.0g	201711000107
46	第12・47図	SK10	鉄製品	碗形滓	(7.5)	(11.6)	(4.8)	—	—	—	—	—	306.0g	201711000111
47	第11・47図	SK10	土製品	羽口	(9.2)	(8.0)	(4.0)	—	—	—	—	—	白色石粒を多く含む	201711000055
48	第11・47図	SK10	土製品	羽口	(3.7)	(5.5)	(3.5)	—	—	—	—	—	84.0g	201711000064
49	第11・47図	SK10	土製品	炉壁	(8.0)	(4.8)	(3.0)	—	—	—	—	—	134.0g	201711000069
50	第11・47図	SK10	土製品	炉壁	(7.3)	(3.2)	(3.0)	—	—	—	—	—	82.0g	201711000070
51	第11・47図	SK10	土製品	炉壁	(6.4)	(7.5)	(3.5)	—	—	—	—	—	138.0g	201711000075
52	第11・47図	SK10	土製品	炉壁	(8.5)	(5.9)	(3.5)	—	—	—	—	—	108.0g	201711000076
53	第12・47図	SK12	鉄製品	碗形滓	(9.0)	(10.3)	(1.6)	—	—	—	—	—	264.0g	201711000138
54	第12・47図	SK12	鉄製品	釘	(13.2)	(4.3)	(1.2)	—	—	—	—	—	100.0g	201711000158
55	第12・47図	SK14	鉄製品	釘	(11.3)	(6.0)	(1.5)	—	—	—	—	—	110.0g	201711000203
56	第12・47図	SK14	鉄製品	碗形滓	(10.2)	(12.4)	5.1	—	—	—	—	—	532.0g	201711000197
57	第12・47図	SK14	鉄製品	碗形滓	(11.5)	(10.0)	(3.0)	—	—	—	—	—	474.0g	201711000199
58	第12・47図	SK14	鉄製品	碗形滓	(9.8)	(5.5)	(5.0)	—	—	—	—	—	190.0g	201711000200
59	第12・47図	SK14	鉄製品	碗形滓	(12.8)	(13.4)	(5.2)	—	—	—	—	—	844.0g	201711000201
60	第12・47図	SK14	鉄製品	碗形滓	(14.7)	(13.0)	(3.0)	—	—	—	—	—	740.0g	201711000202
61	第12・47図	SK15	土製品	羽口	(10.5)	(8.5)	(3.5)	—	—	—	—	—	244.0g	201711000241
62	第12・47図	SK15	土製品	羽口	(8.4)	(9.3)	(5.3)	—	—	—	—	—	286.0g	201711000242
63	第12・47図	SK16	鉄製品	鎌	(10.6)	3.8	1.9	—	—	—	—	—	88g	201711000274
64	第12・47図	SK16	鉄製品	鎌	(9.2)	3.4	1.7	—	—	—	—	—	44g	201711000280
65	第12・47図	SK16	鉄製品	刀子	(6.8)	1.6	1.0	—	—	—	—	—	14g	201711000289
66	第12・47図	SK16	鉄製品	釘	10.6	2.3	1.6	—	—	—	—	—	40g	201711000278
67	第12・47図	SK16	鉄製品	釘	(5.6)	1.5	1.1	—	—	—	—	—	18g	201711000282
68	第12・47図	SK16	鉄製品	釘	(5.4)	2.4	1.5	—	—	—	—	—	32g	201711000283
69	第12・47図	SK16	鉄製品	釘	(6.9)	1.4	0.8	—	—	—	—	—	12g	201711000287
70	第12・47図	SK16	鉄製品	釘	(4.9)	1.1	0.9	—	—	—	—	—	8g	201711000292
71	第12・47図	SK16	土製品	羽口	(7.25)	(7.2)	(2.5)	—	—	—	—	—	326.0g	201711000255
72	第12・47図	SK16	土製品	羽口	(9.1)	(7.9)	6.0	—	—	—	—	—	276g	201711000256
73	第12・47図	SK16	土製品	羽口	(15.5)	(6.0)	(6.0)	—	—	—	—	—	340.0g	201711000257
74	第12・47図	SK16	土製品	羽口	(8.5)	(6.6)	4.8	—	—	—	—	—	158g	201711000259
75	第12・47図	SK16	鉄製品	碗形滓	8.2	9.0	3.5	—	—	—	—	—	244.0g	201711000261
76	第　47　図	SK18	磁器	碗	(13.2)	(5.5)	6.9	染付	染付	岩・松	牡丹・圏線	「富貴長春」	幕末	201711000297
77	第　47　図	SK18	磁器	碗	10.4	4.4	5.3	染付	染付	岩・草花	—	記号あり	18c後半くらわんか手	201711000299
78	第　47　図	SK18	磁器	碗蓋	9.0	—	2.3～2.8	染付	染付	並草葉	雲・横引	—	幕末	201711000300
79	第　47　図	SK18	磁器	皿	—	(7.8)	(1.4)	染付	染付	—	—	蛇ノ目凹型高台「塩口」 紅付着	19c前半	201711000306
80	第　47　図	SK18	磁器	皿	(8.8)	(4.8)	4.2	染付	染付	—	紅付着・宝尽くし	蛇ノ目凹型高台「□コイ」		201711000462
81	第　47　図	SK18	磁器	八角鉢	—	8.0	(3.0)	染付	染付	—	紅付着・文様あり	蛇ノ目凹型高台		201711000463
82	第　47　図	SK18	陶器	盞	3.6	—	1.4	藁灰釉	藁灰釉	—	紅付着	—		201711000464
83	第13・47図	SK18	鉄製品	釘	9.2	6.8	2.4	—	—	—	—	—	174g	201711000431
84	第13・47図	SK18	鉄製品	包丁	(8.8)	5.1	1.7	—	—	—	—	—	58g	201711000432
85	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	10.3	(9.0)	3.3	—	—	—	—	—	276g	201711000327
86	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	10.0	8.5	3.6	—	—	—	—	—	340g	201711000347
87	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	8.3	7.8	5.2	—	—	—	—	—	272g	201711000354
88	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	9.6	8.4	2.6	—	—	—	—	—	254g	201711000357
89	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	12.3	(9.0)	(5.8)	—	—	—	—	—	392g	201711000358
90	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(8.3)	(7.3)	3.1	—	—	—	—	—	182g	201711000365
91	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(5.1)	(4.7)	(2.5)	—	—	—	—	—	42g	201711000371
92	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	10.8	(8.6)	5.5	—	—	—	—	—	354g	201711000376
93	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(12.1)	(10.3)	4.7	—	—	—	—	—	502g	201711000377

第4表　出土遺物観察表②

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整(文様)			胎土・備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面高台		
					(長)	(幅)	(厚)					内印銘等		
94	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(11.4)	(9.4)	5.3	—	—	—	—	—	544g	201711000378
95	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(10.9)	(9.5)	8.5	—	—	—	—	—	628g	201711000379
96	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	11.5	(10.0)	4.9	—	—	—	—	—	744g	201711000380
97	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(13.1)	10.2	5.6	—	—	—	—	—	748g	201711000381
98	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	(10.8)	7.4	5.7	—	—	—	—	—	374g	201711000383
99	第13・47図	SK18	鉄製品	碗形滓	14.1	(12.1)	9.8	—	—	—	—	—	1090g	201711000387
100	第13・47図	SK18	土製品	羽口	(4.7)	(2.0)	(2.0)	—	—	—	—	—	26g	201711000453
101	第13・47図	SK18	土製品	炉壁	6.9	4.5	(3.1)	—	—	—	—	—	62g	201711000449
102	第13・47図	SK18	土製品	炉壁	(5.5)	(2.7)	(2.5)	—	—	—	—	—	60g	201711000455
103	第13・47図	SK18	土製品	炉壁	(7.7)	(4.5)	(4.1)	—	—	—	—	—	96g	201711000460
104	第13・47図	SK18	土製品	炉壁	7.2	6.7	2.1	—	—	—	—	—	66g	201711000461
105	第　47　図	SK18	石製品	石炭	(4.2)	(3.7)	(3.1)	黒	黒	—	—	—	22.0g	201711000459
106	第　47　図	SK21	磁器	碗	(12.0)	7.0	6.0	染付	染付	牡丹唐草	火焔宝珠	「寿」	広東碗	201711000465
107	第　47　図	SK21	磁器	碗	10.7	(3.7)	6.2	染付	染付	牡丹	朝顔	「寿」	広東碗	201711000466
108	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	2.8	0.8	0.6	—	—	—	—	—	2g	201711000597
109	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	(3.1)	0.9	0.7	—	—	—	—	—	4g	201711000600
110	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	3.9	1.0	0.7	—	—	—	—	—	4g	201711000605
111	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	5.4	1.4	0.9	—	—	—	—	—	8g	201711000612
112	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	(5.8)	1.2	0.8	—	—	—	—	—	6g	201711000613
113	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	(6.1)	1.3	1.1	—	—	—	—	—	14g	201711000617
114	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	5.6	1.4	1.0	—	—	—	—	—	12g	201711000620
115	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	(6.5)	1.7	1.3	—	—	—	—	—	24g	201711000621
116	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	(8.0)	1.6	0.7	—	—	—	—	—	12g	201711000636
117	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	2.6	0.5	0.2	—	—	—	—	—	0.45g	201711000654
118	第14・48図	SK21	鉄製品	釘	3.2	0.5	0.3	—	—	—	—	—	0.65g	201711000656
119	第14・48図	SK21	鉄製品	鑿	7.5	2.4	1.5	—	—	—	—	—	26g	201711000638
120	第14・48図	SK21	鉄製品	裁ち鋏	17.5	5.6	1.3	—	—	—	—	—	142g	201711000658
121	第14・48図	SK21	鉄製品	鎹	5.6	3.9	1.0	—	—	—	—	—	24.25g	201711000660
122	第14・48図	SK21	鉄製品	包丁	(11.0)	4.1	0.7	—	—	—	—	—	48g	201711000665
123	第14・48図	SK21	鉄製品	不明品	3.3	2.6	0.8	—	—	—	—	—	6g	201711000663
124	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	13.8	(12.1)	6.5	—	—	—	—	—	882g	201711000493
125	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	(13.5)	(10.4)	6.7	—	—	—	—	—	864g	201711000515
126	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	13.8	12.2	6.3	—	—	—	—	—	822g	201711000516
127	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	12.8	(10.0)	5.2	—	—	—	—	—	598g	201711000517
128	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	10.0	5.8	8.1	—	—	—	—	—	434g	201711000525
129	第14・48図	SK21	鉄製品	碗形滓	9.6	(7.1)	3.8	—	—	—	—	—	324g	201711000526
130	第14・48図	SK21	土製品	羽口	7.2	(6.6)	(3.6)	—	—	—	—	—	84g	201711000669
131	第14・48図	SK21	土製品	羽口	8.3	(6.2)	4.2	—	—	—	—	—	136g	201711000671
132	第14・48図	SK21	土製品	羽口	7.6	6.2	4.2	—	—	—	—	—	94g	201711000672
133	第14・48図	SK21	土製品	羽口	7.8	6.1	(6.6)	—	—	—	—	—	206g	201711000678
134	第14・48図	SK21	土製品	羽口	(5.9)	(4.7)	4.7	—	—	—	—	—	120g	201711000680
135	第14・48図	SK21	土製品	炉壁	(6.1)	5.9	1.7	—	—	—	—	—	64g	201711000681
136	第14・48図	SK21	石製品	火打石	6.1	3.3	1.6	—	—	—	—	—	28g	201711000481
137	第14・48図	SK22	土製品	炉壁	(6.5)	3.5	(2.7)	—	—	—	—	—	54g	201711000691
138	第14・48図	SK23	鉄製品	環状鉄製品	4.5	2.8	1.2	—	—	—	—	—	13.65g	201711000732
139	第14・48図	SK23	鉄製品	環状鉄製品	3.5	3.0	1.4	—	—	—	—	—	10.7g	201711000733
140	第14・48図	SK23	鉄製品	碗形滓	12.0	8.7	3.9	—	—	—	—	—	328g	201711000713
141	第14・48図	SK23	鉄製品	碗形滓	10.9	10.1	2.7	—	—	—	—	—	340g	201711000714
142	第14・48図	SK23	土製品	炉壁	8.2	5.2	(5.1)	—	—	—	—	—	100g	201711000738
143	第14・48図	SK23	土製品	羽口	7.8	5.9	3.1	—	—	—	—	—	98g	201711000739
144	第　48　図	SK25	磁器	碗	10.2	4.2	5.6	染付	染付	岩・草花	—	文字あり	くらわんか手	201711000765
145	第　48　図	SK25	磁器	香炉	8.9	(6.2)	6.8	染付	染付	雷文・牡丹・青海波	—	四脚	釉が青い清朝磁器？	201711000777
146	第15・48図	SK25	鉄製品	釘	12.4	2.0	1.9	—	—	—	—	—	58g	201711000809
147	第15・48図	SK25	鉄製品	包丁	(11.3)	4.3	2.5	—	—	—	—	—	122g	201711000810
148	第15・48図	SK25	土製品	羽口	11.1	(8.9)	7.7	—	—	—	—	—	372g	201711000813
149	第15・48図	SK25	土製品	羽口	(11.0)	(7.7)	6.0	—	—	—	—	—	320g	201711000814
150	第15・48図	SK26	鉄製品	釘	(8.2)	1.5	1.0	—	—	—	—	—	30.45g	201711000841
151	第15・48図	SK26	鉄製品	環状鉄製品	4.1	4.0	1.5	—	—	—	—	—	20.95g	201711000842
152	第　48　図	SK29	陶器	碗	10.7～11.3	4.0	5.7	褐釉	褐釉	—	—	高台無釉		201711000871
153	第　48　図	SK29	陶器	油皿	9.7	4.4	3.2	褐釉	褐釉	—	—	糸切	油煤付着	201711000869
154	第16・48図	SK29	鉄製品	鉄滓	(10.9)	(9.0)	2.5	—	—	—	—	—	216g	201711000881
155	第16・48図	SK29	土製品	羽口	(11.5)	(11.0)	5.9	—	—	—	—	—	508g	201711000891
156	第16・48図	SK29	土製品	炉壁	13.0	(11.8)	4.6	—	—	—	—	—	446g	201711000897
157	第16・48図	SK39	鉄製品	釘	(9.2)	(1.5)	1.1	—	—	—	—	—	18.0g	201711001023
158	第16・48図	SK39	鉄製品	箪笥の把手	(4.0)	(3.8)	4.5	—	—	—	—	—	8.0g	201711001025
159	第16・48図	SK40	土製品	羽口	(5.1)	(6.0)	(7.6)	—	—	—	—	—		201711001040
160	第16・48図	SK40	土製品	羽口	(6.8)	(5.5)	(7.6)	—	—	—	—	—		201711001041
161	第16・48図	SK40	土製品	羽口	(11.1)	(9.1)	8.3	—	—	—	—	—		201711001042
162	第16・48図	SK40	土製品	炉壁	(10.0)	(13.3)	(6.0)	—	—	—	—	—		201711001043
163	第16・48図	SK43	鉄製品	包丁	(8.3)	(3.2)	(1.5)	—	—	—	—	—		201711001053
164	第16・48図	SK43	鉄製品	碗形滓	(13.4)	(9.1)	(6.3)	—	—	—	—	—	680.0g	201711001051
165	第16・48図	SK43	石製品	部材	(11.5)	(13.0)	9.2	—	—	—	—	—		201711001048
166	第　49　図	SK57	磁器	碗	10.0	3.8	4.7	染付	染付	松竹梅	—	—	18c中頃	201711001094
167	第　49　図	SK57	磁器	皿	14.0	8.0	3.3	染付	染付	—	蛇ノ目釉剝 蕊草　花　五弁花	—	18c中頃	201711001097
168	第　49　図	SK57	陶器	甕	(29.8)	—	(28.4)	鉄釉・白土化粧 緑褐彩	鉄釉・白土化粧 緑褐彩	松	—	—	古武雄	201711001102
169	第　49　図	SK65	磁器	碗蓋	(8.8)	4.2	2.8	染付	染付	丸穴に青海波と格子	十字花	—	18c末～19c初広東碗	201711001183
170	第　49　図	SK65	磁器	段重蓋	(10.0)	—	2.0	染付	染付	松	—	—	19c	201711001185
171	第　49　図	SK71	磁器	皿	20.3	10.6	4.4	染付	染付	蔓草	蛇ノ目釉剝 五弁花　扇　草花	—	18c後半	201711001226
172	第　49　図	SK71	磁器	脚付皿	18.5	8.7	7.2	藁灰釉	藁灰釉	—	蛇ノ目釉剝 草	高台無釉	18c	201711001228
173	第16・49図	SK71	鉄製品	鉄斧	11.4	10.2	3.0	—	—	—	—	—	262g	201711001263
174	第16・49図	SK71	鉄製品	十能	(21.7)	6.5	2.9	—	—	—	—	—	214g	201711001264
175	第16・49図	SK71	鉄製品	碗形滓	18.9	15.5	6.1	—	—	—	—	—	1330g	201711001276
176	第　49　図	SK71	石製品	砥石	12.8	4.8	1.5	浅黄	浅黄	—	—	—	126g	201711001211
177	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.6	2.5	0.7	—	—	—	—	—	フグ科左歯骨	201711001281
178	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.4	2.5	0.7	—	—	—	—	—	フグ科右前上顎骨	201711001282
179	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.0	2.2	0.7	—	—	—	—	—	フグ科左歯骨	201711001283
180	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.0	1.8	0.7	—	—	—	—	—	フグ科左前上顎骨	201711001284
181	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	2.4	2.3	0.6	—	—	—	—	—	タイ科クロダイ左前上顎	201711001297
182	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.7	2.4	1.2	—	—	—	—	—	タイ科右歯骨	201711001298
183	第　49　図	SK72	動物遺存体	魚骨	3.6	1.2	0.9	—	—	—	—	—	前頭骨	201711001299
184	第16・49図	SK73	土製品	炉壁	(11.9)	(7.0)	5.7	—	—	—	—	—	312g	201711001313
185	第16・49図	SK73	土製品	炉壁	13.6	7.6	11.2	—	—	—	—	—	748g	201711001314
186	第　49　図	SK80	土製品	恵比寿面	(23.3)	(25.5)	8.4	にぶい橙	にぶい橙	ナデ・黒彩あり	ユビオサエ・ナデ	—		201711001548
187	第16・49図	SK82	鉄製品	楔	8.3	3.3	2.3	—	—	—	—	—	84g	201711001408

第5表　出土遺物観察表③

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整(文様)			胎土・備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面高台		
					(長)	(幅)	(厚)					内印銘等		
188	第16・49図	SK84	土製品	羽口	11.7	11.4	(5.6)	—	—	—	—	—	450g	201711001444
189	第16・49図	SK84	土製品	羽口	(11.0)	(9.7)	(5.6)	—	—	—	—	—	308g	201711001446
190	第 49 図	SK85	陶器	皿	13.4	4.7	3.7	褐釉	褐釉	—	蛇ノ目釉剥	砂目・高台無釉		201711001448
191	第16・49図	SK85	鉄製品	弾丸	1.3	—	—	—	—	—	—	—	10g	201711001449
192	第 49 図	SK86	磁器	碗	(13.6)	—	(6.2)	染付	染付	松竹梅	—	—	17c前半	201711001458
193	第 49 図	SK86	陶器	皿	—	4.7	(2.0)	透明釉	透明釉	—	砂目	砂目・兜巾	17c前半	201711001459
194	第 49 図	SK86	陶器	皿	—	4.6	(1.8)	透明釉	透明釉	—	砂目	砂目・兜巾	17c前半	201711001460
195	第 49 図	SK86	陶器	皿	12.9	4.5	4.3～4.9	藁灰釉	藁灰釉	—	砂目	砂目・兜巾 高台畳付釉かき	17c前半溝縁皿	201711001466
196	第 49 図	SK86	陶器	皿	(10.4)	5.4	4.4	藁灰釉	藁灰釉	—	胎土目	高台無釉・胎土目	17c前半溝縁皿	201711001467
197	第 49 図	SK86	陶器	壺	10.0～10.8	7.6	14.6～15.2	褐釉・自然釉	褐釉・自然釉	—	—	高台無釉 糸切の後高台削出し	17c	201711001552
198	第 49 図	SK86	鉄製品	碗形滓	(8.1)	(7.2)	4.5	—	—	—	—	—	200g	201711001478
199	第 49 図	SK86	鉄製品	碗形滓	(6.6)	(5.7)	3.0	—	—	—	—	—	92g	201711001479
200	第 50 図	SK88	磁器	碗	—	—	(3.3)	染付	染付	花	—	—	17c前半	201711001487
201	第 50 図	SK88	陶器	皿	(13.4)	4.8	4.6	藁灰釉	藁灰釉	—	砂目	砂目・兜巾 高台無釉	17c前半溝縁皿	201711001488
202	第 50 図	SK98	磁器	碗	(11.8)	—	(6.7)	染付	染付	椿・蔓草・貫入	—	—	17c前半釉生掛け	201711001531
203	第 50 図	SK98	磁器	碗	(10.6)	4.2	6.1	染付	染付	虫・草	—	—	17c中頃	201711001532
204	第 49 図	SK98	鉄製品	釘	13.2	4.9	2.7	—	—	—	—	—	118g	201711001538
205	第 49 図	SK98	鉄製品	釘	10.5	2.0	1.5	—	—	—	—	—	30g	201711001539
206	第 50 図	SK99	磁器	碗	(10.6)	—	(3.9)	染付	染付	渦文・花・鎬状溝	—	—	17c前半	201711001542
207	第 50 図	SK99	磁器	皿	—	—	(3.6)	染付	染付	—	圏線	—	17c	201711001543
208	第 50 図	SX31	磁器	碗蓋	(10.6)	(6.5)	3.1	染付	染付	草花	圏線	文様あり	広東碗	201711000902
209	第 50 図	SX31	磁器	皿	(19.4)	(12.4)	2.9	染付	染付	蔓草	松竹梅	圏線	口縁輪花	201711000905
210	第 50 図	SX31	陶器	泥面子	4.6	2.5	2.3	褐釉・緑釉	褐釉・緑釉	—	—	—	獅子の主に子供	201711000909
211	第 50 図	SX31	土製品	さな	(9.0)	(8.1)	1.3	橙	橙	ナデ	ナデ	—	表面溶融	201711000907
212	第16・49図	SX31	土製品	炉壁	(9.5)	(5.5)	(5.5)	—	—	—	—	—	148.0g	201711000931
213	第 49 図	SX31	鉄製品	流動滓	(12.0)	(6.2)	(3.4)	黒褐・にぶい黄橙 にぶい赤褐	黒褐・にぶい黄橙 にぶい赤褐	—	—	—	112g	201711000930
214	第 49 図	SX31	鉄製品	碗形滓	(8.8)	(7.2)	(4.3)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	—	—	—	127g	201711000932
215	第 49 図	SX31	石製品	珪化木	(6.2)	(5.6)	(3.9)	暗灰・灰	暗灰・灰	—	—	—	118g	201711000911
216	第 49 図	SX31	石製品	珪化木	(5.3)	(4.7)	(2.7)	褐灰・灰	褐灰・灰	—	—	—	86g	201711000913
217	第16・49図	SX31足場底	鉄製品	碗形滓	(8.1)	(10.0)	(4.5)	—	—	—	—	—	304.0g	201711000937
218	第16・49図	SX31足場底	鉄製品	碗形滓	(7.6)	(9.2)	(4.0)	—	—	—	—	—	242.0g	201711000938
219	第16・49図	SX31足場底	鉄製品	碗形滓	(8.4)	(6.0)	(2.5)	—	—	—	—	—	104.0g	201711000942
220	第 50 図	SX33 埋土中	磁器	碗	—	—	(3.2)	染付	染付	網文	—	—	18c中～後半	201711000956
221	第 50 図	SX51	磁器	碗蓋	8.8	—	2.4	染付	染付	花唐津	松竹梅・因方襷	「大明祐性」	端反碗	201711001074
222	第 50 図	SX51	磁器	碗	10.6	4.6	6.1	染付	染付	丸穴に格子と青海波	十字花	—	幕末端反碗	201711001075
223	第 50 図	SX51	土製品	炉壁	(9.3)	(5.0)	(3.8)	橙	橙	—	—	—	白色粒・雲母含む	201711001081
224	第 50 図	SX77	陶器	碗	—	5.0	1.9	黒釉	黒釉	—	—	兜巾	天目風	201711001339
225	第 50 図	SX77	陶器	皿	(14.5)	—	(3.0)	透明釉	透明釉	—	—	—	17c前半溝縁皿	201711001338
226	第 50 図	SX77 タタキ下	磁器	皿	—	(8.6)	(1.4)	染付	染付	圏線	菊花	—	17c釉生掛け	201711001354
227	第 50 図	SX77 タタキ下	陶器	碗	11.0	4.4	5.8～6.1	藁灰釉	藁灰釉	—	—	高台内無釉	17c	201711001351
228	第 50 図	SX77 タタキ下	陶器	皿	(23.6)	(8.0)	5.9	褐釉	褐釉	—	—	高台畳付釉かき	17c	201711001352
229	第 50 図	SX77 タタキ下	陶器	皿	—	5.0	(2.3)	灰釉	灰釉	—	砂目	砂目	17c	201711001353
230	第16・50図	SX77	石製品	切石	(24.7)	11.9	8.6	—	—	鑿痕	—	—	2123g凝灰岩	201711001346
231	第 50 図	SX77 タタキ中	石製品	石炭	(6.6)	(4.0)	(3.7)	黒	黒	—	—	—	52.2g	201711001348
232	第 50 図	SX77 タタキ中	石製品	石炭	(6.8)	(4.3)	(2.1)	灰褐	灰褐	—	—	—	34.3g	201711001350

Ⅳ．総括

今回の調査では鍛冶に関する遺構が多く検出された。各遺構の年代については第1表を参照願う。本調査区は、出土した碗形滓の大半が切断されており、切断前は一個当たり1000gを超える大型品であることや、鉄滓と鍛冶関連遺物・製品の内訳等から鑑みて、大鍛冶を伴い製品化までを行った遺跡と考えられる。SX33は、形状とSD37との位置関係から円筒形の炉の基底部の可能性が考えられる。SD37はそれに接続する送風管とみられ、調査区外の東方に鞴がある可能性が高い。これらの施設で鉄素材を精錬していたことが推測される。SX31、SX51、SX77は手前に足場を有し、奥に燃焼部をもつその形状から、鉄を加工して製品を作るための火床と考えられる。SK41も4条の溝が放射状に配置される特異な形状から、何らかの炉の可能性があるが詳細は不明である。鍛冶関連遺物で古いものはSK86からの出土であるが、量が少なく混入品の可能性も否定できず、SX77創業時の18世紀前半を本格的な操業開始時期と捉える。18世紀後半にかけて鍛冶関連遺物の出土が増加し、送風管や円筒炉も登場する。19世紀には火床が2基検出されており鍛冶関連遺物の出土が最も多くなることから、鍛冶のピークを迎えたことがわかる。幕末は火床や炉がなく、鍛冶関連遺物の出土も減少する。『明治五年通町絵図』では「岡　百蔵」が土地所有者となっているが、岡家が鍛冶に関わっていた史料は管見の限り確認されず、分筆されていることからも、近世と近代では居住者が異なると考えられる。このことからも、当地の鍛冶工房は明治5年までには廃業していると考える。

今回の調査では近世城下における鍛冶屋の様相について有用な資料が多く得られたが、工期や紙面の都合上、十分な検討を加えることができなかった。鉄滓の分析も含め、今後も継続して調査を進めたい。

第17図　調査区全景（東から）

第18図　SD34遺物出土状況（北東から）

第19図　SD35遺物出土状況（南から）

第20図　SD37検出状況（西から）

第21図　SD37・ＳＸ33検出状況（西から）

第22図　ＳＥ70掘方断面（南から）

第23図　ＳＥ81掘削状況（東から）

第24図　SK9土層断面（西から）

第25図　SK10完掘状況（北から）

第26図　SK18完掘状況（西から）

第27図　SK21完掘状況（南西から）

第28図　SK25完掘状況（東から）

第29図　ＳＫ29炉壁出土状況（北東から）

第30図　ＳＫ40羽口出土状況（北から）

第31図　ＳＫ41完掘状況（西から）

第32図　SK57完掘状況（南から）

第33図　SK65出土状況（北東から）

第34図　SK71掘削状況（南西から）

第35図　SK86土層断面（北から）

第36図　SK85完掘状況（西から）

第37図　SK88完掘状況（西から）

第38図　ＳＫ99土層断面（北から）

第39図　SX33礫検出状況（南から）

第40図　SX33溶鉄検出状況（南西から）

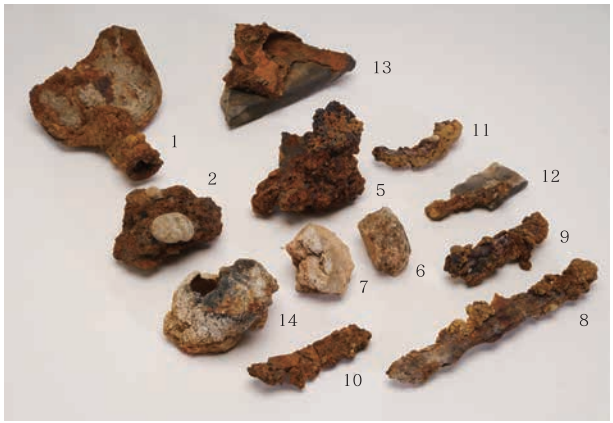
第41図　SX31床面検出状況（南西から）

第42図　SX31完掘状況（南西から）

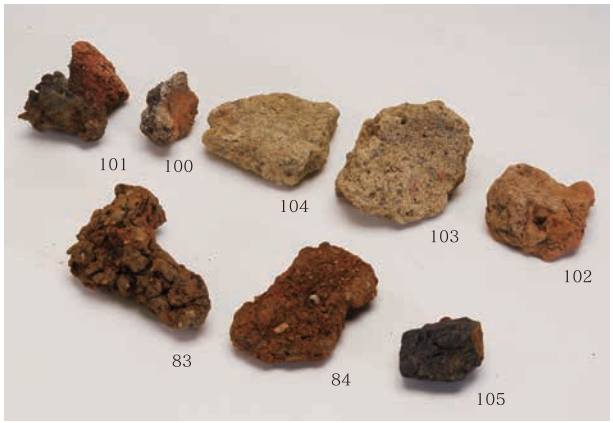
第43図　SX51完掘状況（南西から）

第44図　SX77床面検出状況（南東から）

第45図　SX77完掘状況（北から）



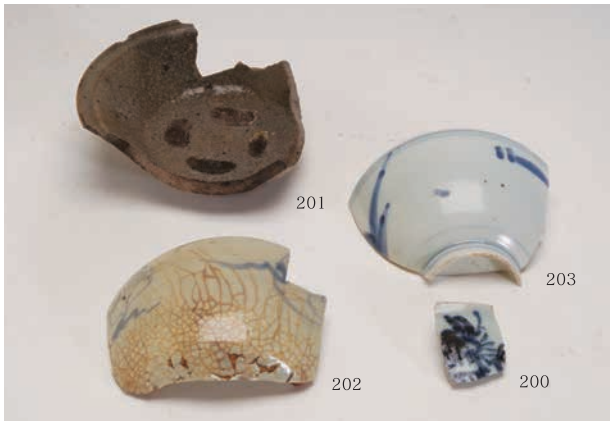
第46図　出土遺物写真①



第47図　出土遺物写真②

第48図　出土遺物写真③

第49図　出土遺物写真④



第50図　出土遺物写真⑤

報　告　書　抄　録

ふりがな	くるめじょうかまちいせき　だいにじゅうななじはっくつちょうさほうこく
書　　名	久留米城下町遺跡　第27次発掘調査報告
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第407集
編著者名	江頭　俊介
編集機関	久留米市　市民文化部　文化財保護課
所　在　地	〒830-8520　福岡県久留米市城南町15-3　TEL 0942-30-9225　FAX 0942-30-9714 Email：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2019（平成31）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査の原因
くるめじょうかまちいせき 久留米城下町遺跡 だい　ちょうさ 第27次調査	ふくおかけんくるめし 福岡県久留米市通町107-4、107-5、107-6、日吉町29-6、29-7、29-8、63-2	40203		33°18′55″	130°31′8″	20170801 ～ 20171110	280　㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久留米城下町遺跡 第27次調査	集落	近世	井戸　7基 土坑　37基 埋甕　3基 炉　3基 石組 ピット	近世陶磁器、鍛冶関連遺物等	約500ｋｇに及ぶ鉄滓と鍛冶炉等が検出された。

土木工事の届出日	平成29年6月20日	遺物の発見通知日	平成29年11月15日 (29文財第1140号)

要　　約

久留米市中心街を東西に貫く通町の旧七丁目にあたる町屋の遺構を調査した。約500kgに及ぶ鉄滓と鍛冶炉等が検出され、近世城下における鉄生産の解明に資する貴重な資料が得られた。

久留米城下町遺跡
－第27次発掘調査報告－
久留米市文化財調査報告書　第407集
平成31年3月31日
発　行　久留米市教育委員会
編　集　久留米市
　　市民文化部　文化財保護課
印　刷　香和印刷株式会社
　　久留米市津福本町2320-15

久留米城下町遺跡　－第27次発掘調査報告－　久留米市文化財調査報告書　第四〇七集

平成三十一年　久留米市教育委員会